

福知山市下水道施設ほか維持管理業務

仕様書

福知山市上下水道部下水道課

# 目次

## 第1編 総則

### 第1章 一般事項

第1節	目的	1-1- 1
第2節	概要	1-1- 1
第3節	委託対象区域	1-1- 1
第4節	業務期間	1-1- 1
第5節	契約及び支払	1-1- 1
第6節	特約事項	1-1- 1
第7節	基本事項	1-1- 2
第8節	一括委託等の禁止	1-1- 2
第9節	管理技術者等の配置	1-1- 2
第10節	有資格者の配置	1-1- 2
第11節	契約締結後の提出書類	1-1- 3
第12節	業務履行計画書	1-1- 3
第13節	業務履行報告	1-1- 4
第14節	業務施行写真	1-1- 6
第15節	検査	1-1- 6
第16節	施設等の使用	1-1- 6
第17節	受注者の費用負担	1-1- 7
第18節	発注者の費用負担	1-1- 7
第19節	緊急時の体制	1-1- 7
第20節	緊急時の措置	1-1- 7
第21節	事故の報告	1-1- 8
第22節	安全の確保	1-1- 8
第23節	故障時の対応	1-1- 8
第24節	施設の保全	1-1- 8
第25節	統計等の調査	1-1- 9
第26節	人権研修の実施	1-1- 9
第27節	他事業への協力	1-1- 9
第28節	業務の引継ぎ	1-1- 9
第29節	守秘義務	1-1- 9
第30節	遵守事項	1-1-10
第31節	疑義等	1-1-10
第32節	その他	1-1-10
第33節	関係法令等	1-1-10

### 第2章 特記事項

第1節	目的	1-2- 1
第2節	概要	1-2- 1
第3節	対象施設	1-2- 1
第4節	施設規模及び施設位置図	1-2- 3
第5節	管理地区名称	1-2- 3

第6節	運転管理計画	1-2- 3
第7節	運転操作管理	1-2- 4
第8節	運転監視に関する業務	1-2- 4
第9節	保守点検	1-2- 4
第10節	簡易的故障修理	1-2- 5
第11節	法定点検・定期自主点検等	1-2- 5
第12節	放流水質等の基準	1-2- 5
第13節	汚泥処理物性状等の基準	1-2- 6
第14節	受注者の責任の免除	1-2- 6
第15節	発注者による放流水の監視、立入検査	1-2- 6
第16節	故障、事故発生時の対応	1-2- 7
第17節	備品及び備付けの工具類	1-2- 7
第18節	環境整備	1-2- 7
第19節	物品等の管理	1-2- 8
第20節	業務開始時の機能確認	1-2- 8
第21節	業務実施期間中における機能確認	1-2- 8
第22節	契約終了時の機能確認	1-2- 8
第23節	時間外勤務の対応	1-2- 9
第24節	経費の負担	1-2- 9
第25節	受注者による投資の提案	1-2- 9
第26節	その他事業への協力	1-2- 9
第27節	管理地区内の別業務	1-2- 9

### 第3章 別紙

1-1	人権研修実施報告書	1-3- 1
1-2	処理施設規模	1-3- 3
1-3	処理施設位置図	1-3- 8

## 第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務

### 第1章 下水道施設運転監視・保守管理業務

第1節	福知山終末処理場等運転操作管理・保守管理業務	2-1- 1
第2節	薬品類の管理	2-1- 4

### 第2章 水質検査業務

第1節	概要	2-2- 1
第2節	公共下水道施設等における水質に係る検査業務	2-2- 1
第3節	有害物質等測定業務	2-2- 9

### 第3章 処理施設附帯業務

第1節	概要	2-3- 1
第2節	汚泥槽等清掃・浚渫業務	2-3- 1
第3節	し渣沈砂収集運搬業務	2-3- 1
第4節	雨水排水ポンプ用エンジン点検業務	2-3- 2
第5節	自家発電機用エンジン点検業務	2-3- 3

第6節	段畑雨水ポンプ場監視制御装置点検業務	2-3- 4
第7節	遠隔地集中監視制御システム保守点検業務	2-3- 7
第8節	水処理施設・ポンプ場ほか計装設備保守点検業務	2-3-11
第9節	農業集落排水汚水処理場集中監視装置保守点検業務	2-3-11
第10節	樹木・庭園管理及び草木屑等廃棄物処分運搬業務	2-3-12
第11節	鯉池管理業務	2-3-14
第12節	施設清掃管理業務	2-3-15
第13節	管理棟玄関自動ドア点検業務	2-3-16
第14節	消防設備点検業務	2-3-17
第15節	重油地下タンク貯蔵所定期点検業務	2-3-18
第16節	空調設備保守点検業務	2-3-20
第17節	クレーン設備保守点検業務	2-3-21
第18節	脱臭設備活性炭吸着塔活性炭入替業務	2-3-22
第19節	豪雨時等緊急対応業務	2-3-23
第20節	緊急対応車両等点検業務	2-3-24

#### 第4章 マンホールポンプ施設業務

第1節	共通事項	2-4- 1
第2節	マンホールポンプ設備点検業務	2-4- 1
第3節	槽内清掃業務	2-4- 3

#### 第5章 管路施設業務

第1節	共通事項	2-5- 1
第2節	圧送管清掃業務	2-5- 1
第3節	自然流下管清掃業務	2-5- 2
第4節	管路緊急対応業務	2-5- 3
第5節	不明水調査業務(マンホール内部調査)	2-5- 4
第6節	本管テレビカメラ調査業務	2-5- 4
第7節	取付け管テレビカメラ調査業務	2-5- 5
第8節	水管橋点検業務	2-5- 6
第9節	仕切弁調査業務	2-5- 7
第10節	ストックマネジメント計画に基づく点検・調査業務1 (管口カメラ等点検)	2-5- 8
第11節	ストックマネジメント計画に基づく点検・調査業務2 (本管テレビカメラ等調査)	2-5- 8

#### 第6章 小修繕等業務

第1節	共通事項	2-6- 1
第2節	汚水処理施設修繕	2-6- 1
第3節	マンホールポンプ施設	2-6- 2
第4節	公共汚水ます修繕	2-6- 3
第5節	止水修繕	2-6- 4
第6節	取付管修繕	2-6- 5
第7節	本管簡易修繕	2-6- 6
第8節	物品調達	2-6- 6

## 第7章 別紙

2-1	計装設備点検対象機器一覧表	2-7-1
2-2	福知山終末処理場樹木庭園管理作業範囲図	2-7-2
2-3	各施設周辺除草位置図、除草範囲図	2-7-3
2-4	水内排水路収集運搬箇所	2-7-16
2-5	施設清掃業務清掃範囲図	2-7-17
2-6	消防設備点検対象設備一覧表	2-7-32
2-7	クレーン設備一覧	2-7-40
2-8	マンホールポンプ設備点検業務対象箇所一覧表	2-7-41
2-9	マンホールポンプ設備巡回点検記録表	2-7-44
2-10	管路施設業務集計表	2-7-45
2-11	水管橋点検位置図	2-7-46
2-12	小修繕等業務集計表	2-7-47

## 第3編 特環地区下水道施設運転管理等業務

### 第1章 下水道処理施設運転管理等業務

第1節	管理施設	3-1-1
第2節	業務内容	3-1-1
第3節	運転管理及び運転操作管理	3-1-2
第4節	保守点検	3-1-2
第5節	運転管理報告	3-1-2
第6節	使用薬品類	3-1-2

### 第2章 水質等検査業務

第1節	概要	3-2-1
第2節	下水道施設における水質に係る検査業務	3-2-1
第3節	有害物質測定	3-2-6

### 第3章 処理施設附帯業務

第1節	共通事項	3-3-1
第2節	し渣沈砂収集運搬業務	3-3-1
第3節	発生汚泥の管理及び運搬	3-3-1
第4節	水処理施設・ポンプ場ほか計装設備保守点検業務	3-3-2
第5節	消防設備点検業務	3-3-2
第6節	脱臭設備活性炭吸着塔活性炭入替業務	3-3-3
第7節	自家発電機用エンジン点検業務	3-3-4
第8節	空調設備点検業務	3-3-4
第9節	クレーン自主点検業務	3-3-5
第10節	第2種圧力容器自主検査業務	3-3-6
第11節	場内環境整備業務	3-3-6

### 第4章 マンホールポンプ施設業務

第1節	共通事項	3-4-1
-----	------	-------

第2節	マンホールポンプ設備点検業務	3-4- 1
第3節	槽内清掃業務	3-4- 3

## 第5章 管路施設業務

第1節	共通事項	3-5- 1
第2節	圧送管清掃業務	3-5- 1
第3節	管路緊急対応業務	3-5- 2
第4節	不明水調査業務(マンホール内部調査)	3-5- 3
第5節	本管テレビカメラ調査業務	3-5- 3
第6節	取付け管テレビカメラ調査業務	3-5- 4
第7節	水管橋点検業務	3-5- 5
第8節	仕切弁調査業務	3-5- 6

## 第6章 小修繕等業務

第1節	共通事項	3-6- 1
第2節	汚水処理施設修繕	3-6- 1
第3節	マンホールポンプ施設修繕	3-6- 2
第4節	公共污水ます修繕	3-6- 3
第5節	止水修繕	3-6- 4
第6節	取付管修繕	3-6- 5
第7節	本管簡易修繕	3-6- 6
第8節	物品調達	3-6- 6

## 第7章 別紙

3-1	日常管理記録表	3-7- 1
3-2	機器運転時間記録表	3-7- 2
3-3	水質分析検査報告書	3-7- 7
3-4	計装設備点検対象機器一覧表	3-7- 8
3-5	消防設備点検対象機器一覧表	3-7- 9
3-6	マンホールポンプ設備点検業務対象箇所一覧表	3-7-10
3-7	マンホールポンプ設備巡回点検記録表	3-7-12
3-8	管路施設業務集計表	3-7-13
3-9	水管橋点検位置図	3-7-14
3-10	小修繕等業務集計表	3-7-15

## 第4編 農集福知山東部地区下水道施設運転管理等業務

### 第1章 汚水処理施設管理業務

第1節	汚水処理施設運転・保守管理業務	4-1- 1
第2節	水質検査業務	4-1- 2

### 第2章 処理施設附帯業務

第1節	共通事項	4-2- 1
第2節	自家発電機用エンジン点検業務	4-2- 1
第3節	計装機器保守点検業務	4-2- 1

第4節	消防設備点検業務	4-2- 2
第5節	場内環境整備業務	4-2- 3

### 第3章 マンホールポンプ施設業務

第1節	共通事項	4-3- 1
第2節	マンホールポンプ設備点検業務	4-3- 1
第3節	槽内清掃業務	4-3- 3

### 第4章 管路施設業務

第1節	共通事項	4-4- 1
第2節	圧送管清掃業務	4-4- 1
第3節	管路緊急対応業務	4-4- 2
第4節	不明水調査業務(マンホール内部調査)	4-4- 3
第5節	本管テレビカメラ調査業務	4-4- 3
第6節	取付け管テレビカメラ調査業務	4-4- 4

### 第5章 小修繕等業務

第1節	共通事項	4-5- 1
第2節	污水处理施設修繕	4-5- 1
第3節	マンホールポンプ施設修繕	4-5- 2
第4節	公共污水ます修繕	4-5- 3
第5節	止水修繕	4-5- 4
第6節	取付管修繕	4-5- 5
第7節	本管簡易修繕	4-5- 6
第8節	物品調達	4-5- 7

### 第6章 別紙

4-1	日常目視点検表	4-6- 1
4-2	日常管理記録表	4-6- 2
4-3	施設点検表	4-6- 3
4-4	機器運転時間集計表	4-6-10
4-5	水質分析検査報告書	4-6-13
4-6	計装設備点検対象機器一覧表	4-6-14
4-7	消防設備点検対象機器一覧表	4-6-15
4-8	マンホールポンプ設備点検業務対象箇所一覧表	4-6-16
4-9	マンホールポンプ設備巡回点検記録表	4-6-17
4-10	管路施設業務集計表	4-6-18
4-11	小修繕等業務集計表	4-6-19

## 第5編 農集福知山西部地区下水道施設運転管理等業務

### 第1章 污水处理施設管理業務

第1節	污水处理施設運転・保守管理業務	5-1- 1
第2節	水質検査業務	5-1- 2

## 第2章 処理施設附帯業務

第1節	共通事項	5-2- 1
第2節	自家発電機用エンジン点検業務	5-2- 1
第3節	計装機器保守点検業務	5-2- 1
第4節	消防設備点検業務	5-2- 2
第5節	場内環境整備業務	5-2- 3

## 第3章 マンホールポンプ施設業務

第1節	共通事項	5-3- 1
第2節	マンホールポンプ設備点検業務	5-3- 1
第3節	槽内清掃業務	5-3- 3

## 第4章 管路施設業務

第1節	共通事項	5-4- 1
第2節	圧送管清掃業務	5-4- 1
第3節	管路緊急対応業務	5-4- 2
第4節	不明水調査業務(マンホール内部調査)	5-4- 3
第5節	本管テレビカメラ調査業務	5-4- 4
第6節	取付け管テレビカメラ調査業務	5-4- 4

## 第5章 小修繕等業務

第1節	共通事項	5-5- 1
第2節	汚水処理施設修繕	5-5- 1
第3節	マンホールポンプ施設修繕	5-5- 2
第4節	公共汚水ます修繕	5-5- 3
第5節	止水修繕	5-5- 4
第6節	取付管修繕	5-5- 5
第7節	本管簡易修繕	5-5- 6
第8節	物品調達	5-5- 7

## 第6章 別紙

5- 1	日常目視点検表	5-6- 1
5- 2	日常管理記録表	5-6- 2
5- 3	施設点検表	5-6- 3
5- 4	機器運転時間集計表	5-6- 8
5- 5	水質分析検査報告書	5-6-10
5- 6	計装設備点検対象機器一覧表	5-6-11
5- 7	消防設備点検対象機器一覧表	5-6-12
5- 8	マンホールポンプ設備点検業務対象箇所一覧表	5-6-13
5- 9	マンホールポンプ設備巡回点検記録表	5-6-14
5-10	管路施設業務集計表	5-6-15
5-11	小修繕等業務集計表	5-6-16

## 第6編 農集福知山南部地区下水道施設運転管理等業務



## 第1章 汚水処理施設管理業務

第1節 汚水処理施設運転・保守管理業務	6-1- 1
第2節 水質検査業務	6-1- 2

## 第2章 処理施設附帯業務

第1節 共通事項	6-2- 1
第2節 自家発電機用エンジン点検業務	6-2- 1
第3節 計装機器保守点検業務	6-2- 1
第4節 消防設備点検業務	6-2- 2
第5節 場内環境整備業務	6-2- 3

## 第3章 マンホールポンプ施設業務

第1節 共通事項	6-3- 1
第2節 マンホールポンプ設備点検業務	6-3- 1
第3節 槽内清掃業務	6-3- 3

## 第4章 管路施設業務

第1節 共通事項	6-4- 1
第2節 圧送管清掃業務	6-4- 1
第3節 管路緊急対応業務	6-4- 2
第4節 不明水調査業務(マンホール内部調査)	6-4- 3
第5節 本管テレビカメラ調査業務	6-4- 3
第6節 取付け管テレビカメラ調査業務	6-4- 4

## 第5章 小修繕等業務

第1節 共通事項	6-5- 1
第2節 汚水処理施設修繕	6-5- 1
第3節 マンホールポンプ施設修繕	6-5- 2
第4節 公共汚水ます修繕	6-5- 3
第5節 止水修繕	6-5- 4
第6節 取付管修繕	6-5- 5
第7節 本管簡易修繕	6-5- 6
第8節 物品調達	6-5- 6

## 第6章 別紙

6- 1 日常目視点検表	6-6- 1
6- 2 日常管理記録表	6-6- 2
6- 3 施設点検表	6-6- 3
6- 4 機器運転時間集計表	6-6- 5
6- 5 水質分析検査報告書	6-6- 9
6- 6 計装設備点検対象機器一覧表	6-6-10
6- 7 消防設備点検対象機器一覧表	6-6-11
6- 8 マンホールポンプ設備点検業務対象箇所一覧表	6-6-12
6- 9 マンホールポンプ設備巡回点検記録表	6-6-13
6-10 管路施設業務集計表	6-6-14

6-11	小修繕等業務集計表	6-6-15
------	-----------	--------

## 第7編 農集福知山北部地区下水道施設運転管理等業務

### 第1章 汚水処理施設管理業務

第1節	汚水処理施設運転・保守管理業務	7-1- 1
第2節	水質検査業務	7-1- 3

### 第2章 処理施設附帯業務

第1節	共通事項	7-2- 1
第2節	自家発電機用エンジン点検業務	7-2- 1
第3節	計装機器保守点検業務	7-2- 1
第4節	消防設備点検業務	7-2- 2
第5節	場内環境整備業務	7-2- 3

### 第3章 マンホールポンプ施設業務

第1節	共通事項	7-3- 1
第2節	マンホールポンプ設備点検業務	7-3- 1
第3節	槽内清掃業務	7-3- 3

### 第4章 管路施設業務

第1節	共通事項	7-4- 1
第2節	圧送管清掃業務	7-4- 1
第3節	管路緊急対応業務	7-4- 2
第4節	不明水調査業務(マンホール内部調査)	7-4- 3
第5節	本管テレビカメラ調査業務	7-4- 3
第6節	取付け管テレビカメラ調査業務	7-4- 4

### 第5章 小修繕等業務

第1節	共通事項	7-5- 1
第2節	汚水処理施設修繕	7-5- 1
第3節	マンホールポンプ施設修繕	7-5- 2
第4節	公共汚水ます修繕	7-5- 3
第5節	止水修繕	7-5- 4
第6節	取付管修繕	7-5- 5
第7節	本管簡易修繕	7-5- 6
第8節	物品調達	7-5- 7

### 第6章 別紙

7-1	日常目視点検表	7-6- 1
7-2	日常管理記録表	7-6- 2
7-3	施設点検表	7-6- 3
7-4	機器運転時間集計表	7-6-24
7-5	水質分析検査報告書	7-6-33
7-6	計装設備点検対象機器一覧表	7-6-34

7-7	消防設備点検対象機器一覧表 . . . . .	7-6-35
7-8	マンホールポンプ設備点検業務対象箇所一覧表 . . . . .	7-6-36
7-9	マンホールポンプ設備巡回点検記録表 . . . . .	7-6-38
7-10	管路施設業務集計表 . . . . .	7-6-39
7-11	小修繕等業務集計表 . . . . .	7-6-40

## 第8編 マンホールポンプ緊急対応業務

### 第1章 マンホールポンプ緊急対応業務

第1節	業務概要 . . . . .	8-1- 1
第2節	業務時間 . . . . .	8-1- 1
第3節	現地対応数 . . . . .	8-1- 1
第4節	対応要領 . . . . .	8-1- 1
第5節	留意事項 . . . . .	8-1- 3

### 第2章 別紙

8-1	マンホールポンプ緊急対応記録表 . . . . .	8-2- 1
8-2	マンホールポンプ緊急対応件数表 . . . . .	8-2- 2

第1編 総則  
第1章 一般事項

第1編 総則

第1章 一般事項

第1節 目的

本仕様書(以下「仕様書」という。)は、福知山市上下水道部(以下「発注者」という。)が発注する、福知山市下水道施設ほか維持管理業務(以下「業務」という。)に適用するものであり、業務を適正かつ円滑に実施するため必要な事項を定めるものである。

第2節 概要

本業務は、下水道法、浄化槽法、水質汚濁防止法等に基づき福知山市が所管する終末処理場、浄化センター、中継ポンプ場、雨水ポンプ場、雨水貯留施設、汚水処理施設、管きょ等の下水道施設等の処理施設運転管理、水質管理、調査、保守点検、機器定期点検、建物附帯設備法令点検、物品調達、場内環境整備及び一部修繕を委託するものである。ただし、汚泥有効利用施設維持管理・運營業務の範囲は対象外とする。

第3節 委託対象区域

委託対象区域は以下のとおりとし、その区域内の施設概要、業務内容の詳細等は、第1編第2章以降に示すものとする。

- 1 福知山市公共下水道区域
- 2 福知山市特定環境保全公共下水道区域
- 3 福知山市農業集落排水処理区域
- 4 福知山市簡易排水処理区域

第4節 業務期間

令和8年4月1日から令和11年3月31日までの長期継続契約

第5節 契約及び支払

福知山市財務規則及び業務委託契約書による。

業務完了後、適正な請求書を受理してから30日以内に支払う。

第6節 特約事項

- 1 この業務は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第234条の3の規定による長期継続契約であるため、この契約の締結の日に属する年度の翌年度以降においては当該契約に係る発注者の歳出において、減額又は削除があった場合、発注者は、この契約を変更し、また解除することができる。

第1編 総則  
第1章 一般事項

- 2 前号の場合において、発注者は、受注者に対して事前に通知し、その場合は、双方協議するものとする。

第7節 基本事項

- 1 本業務の見積書提出者は、見積書提出前に業務に関する疑義をただし、委託契約締結後は、発注者の指示に従うこと。
- 2 仕様書に明記されていない事項で、設備上あるいは履行上当然必要な事項については、1により解明指示されることが原則であるが、委託契約締結後に生じた場合は、充分なる協議を行った上、決定するものとする。
- 3 受注者は、関係諸法例規等（例規、告示、命令等含む）に違反しないよう履行にあたること。

第8節 一括委託等の禁止

- 1 受注者は、業務の全部を一括して、又は発注者が仕様書等において指定した主たる部分を第三者に委任し、又は請け負わせてはならない。
- 2 受注者は、前項の主たる部分のほか、発注者が仕様書等において指定した部分を第三者に委任し、又は請け負わせてはならない。
- 3 受注者は、業務の一部を第三者に委任し、又は請け負わせようとするときは、あらかじめ、発注者の承諾を得なければならない。ただし、発注者が仕様書等において指定した軽微な部分を委任し、又は請け負わせようとするときは、この限りでない。
- 4 発注者は、受注者に対して、業務の一部を委任し、又は請け負わせた者の商号又は名称その他必要な事項の通知を請求することができる。

第9節 管理技術者等の配置

- 1 本業務の施行にあたって、業務に従事する管理技術者、正副責任者、作業員（以下、「管理技術者等」という。）は、対象施設の機能や構造、地域性を熟知した者を配置し、本業務の内容を理解、熟知した管理技術者等、によって施行すること。
- 2 発注者は、受注者が選任した管理技術者等その職務の執行について著しく不相当と認めた場合は、受注者に対して、その理由を明示した書面により、必要な措置をとるべきことを請求することができるものとする。
- 3 受注者は、発注者担当職員がその職務の執行について著しく不相当と認めた場合は、発注者に対して、その理由を明示した書面により、必要な措置をとるべきことを請求することができるものとする。

第10節 有資格者の配置

第1編 総則  
第1章 一般事項

本業務の履行に関する作業は、各作業に必要となる有資格者による作業とする。  
また、本業務において、次に示す資格等を有する資格者を配置することとする。

- 1 下水道法施行令第15条の3の各号に定める資格を有する技術者
- 2 浄化槽法第10条第2項に定める資格を有する技術者
- 3 酸素欠乏・硫化水素危険作業主任技術者技能講習終了者
- 4 床上操作式クレーン運転技能講習修了者  
(各施設に設置するクレーン荷重が操作できる運転技能講習)
- 5 小型移動式クレーン運転技能講習修了者
- 6 玉掛け技能講習者
- 7 小型車両系建設機械（ホイルローダー）特別教育修了者
- 8 フォークリフト運転技能講習修了者
- 9 第2種電気工事士 以上
- 10 危険物取扱者（乙種第4類 以上）
- 11 下水道管理技術認定（管路施設）
- 12 下水道管路管理専門技師（清掃）
- 13 下水道管路管理専門技師（調査）
- 14 産業洗浄技能士（高圧洗浄）
- 15 土木施工管理技士
- 16 その他業務履行上、必要とする法令で定められた資格者

第11節 契約締結後の提出書類

- 1 受注者は、委託契約締結後5日以内に下記の書類を提出すること。なお、提出部数は1部を基本とするが、発注者が特に必要とする場合は指示された部数とする。
  - (1) 業務着手届
  - (2) 業務工程表
  - (3) 管理技術者届
  - (4) 各施設の正副責任者届
  - (5) 業務内訳書
- 2 受注者は、契約期間中に前号の書類に変更事項があった場合は、速やかに変更後の書類を提出することとする。

第12節 業務履行計画書

- 1 受注者は、業務期間内の全体及び各年度の履行計画書を提出することとする。履行計画書には、次の事項を記載することとする。
  - (1) 業務概要

- (2) 組織体制
  - (3) 有資格者一覧表及び資格証明書等
  - (4) 安全管理計画
  - (5) 運転監視計画
  - (6) 水質管理計画
  - (7) 保守点検計画
  - (8) 環境整備計画
  - (9) 物品調達管理計画
  - (10) 管きょ（管路及びマンホールポンプ施設）点検調査計画
  - (11) 修繕計画
  - (12) 関連法令等による附帯設備点検業務計画
  - (13) 環境等への配慮に関する計画
  - (14) 故障、事故発生時の対応に関する計画
  - (15) 提出する各書類の様式に関する計画
  - (16) その他の業務計画
- 2 受注者は、契約期間中に前号の書類に変更事項があった場合は、速やかに発注者に報告して該当する事項の変更を行うこととする。

### 第13節 業務履行報告

- 1 受注者は、月度及び年度等、業務履行に関する報告書を発注者に提出することとする。  
報告時に関連資料がある場合は、報告書に添付することとする。
- 2 定期報告以外にも発注者から報告等を求められた場合は、書面により必要事項を報告することとする。
- 3 月度報告
- (1) 月度報告は、次に示す内容を基本とするが、発注者が別途報告を求める場合は、その事項を添付することとする。
    - ア 業務進捗管理表（年度間計画と進捗状況の管理）
    - イ 運転管理月報（汚水流入出量、薬品使用量、電力使用量、水道使用量、機器類運転時間、燃料使用量）
    - ウ 水質検査月報
    - エ 保守点検月報
    - オ 環境整備月報
    - カ 物品調達集計表（年度間累積報告とする）
    - キ 管路及びマンホール施設点検等実施月報
    - ク 修繕費用集計表（年度間累積報告とする）

- ケ 故障等緊急対応月報
- コ 施設故障状況一覧表（随時更新）
- サ その他発注者が必要とする報告事項

(2) 提出方法

月度報告内容の、ア、イ、カ、クは紙媒体の提出とする。ウ～オ、キ、ケ、コについては、福知山市公共下水道区域及び福知山市特定環境保全公共下水道区域の報告に関しては、福知山市下水道施設台帳管理システムへ入力したうえで電子媒体の提出とし、福知山市農業集落排水処理区域も電子媒体における提出とする。

ただし、コ施設故障状況一覧表（随時更新）において、新たに機器が追加になった場合は紙媒体の提出とする。また、福知山市公共下水道区域及び福知山市特定環境保全公共下水道区域は、機器の故障及び修繕の情報を福知山市下水道施設台帳管理システムへの入力もすることとする。

上記以外の提出方法については、随時発注者と協議を行うものとする。

4 年度報告

- (1) 年度報告は、次に示す内容を基本とするが、発注者が別途報告を求める場合は、その事項を添付することとする。

- ア 業務進捗管理表（年度間計画と進捗状況の管理）
- イ 運転管理年報
- ウ 水質検査年報
- エ 保守点検年報
- オ 環境整備年報
- カ 物品調達集計表（年度間累積報告とする）
- キ 管路及びマンホール施設点検等実施年報
- ク 修繕費用集計表（年度間累積報告とする）
- ケ 故障等緊急対応年報
- コ その他発注者が必要とする報告事項

(2) 提出方法

年度報告は、電子媒体の提出とする。

5 適宜報告

故障事故発生時などの事象発生時には、口頭による報告とともに、任意様式の書面による報告を行うこととする。事象処置後の報告も行うこととする。

6 委託期間満了時

受注者は、契約満了に伴い委託期間満了日から速やかに、次の書類を提出しなければならない。

- (1) 委託期間最終年度における前項に定める施設管理状況報告書



(2) 発注者が特に必要と認めた書類

第14節 業務施行写真

- 1 その他の技術業務等において、写真を必要とする報告書を作成する場合は、原則として横撮りとする。
- 2 着手前写真は、実施箇所全体が写るように撮影する。撮影方向は、3方向以上からの方向が望ましい。
- 3 完了写真は着手前写真を見ながら同じ角度で撮影する。
- 4 写真帳の綴り方は、最初の見開きページで着手前（左ページ）、完了（右ページ）を対比できるようにする。また、着手前写真と完了写真の編集後に、作業中写真を作業がわかりやすく編集する。

第15節 検査

- 1 毎月の業務履行を完了後に、所定の業務完了届、業務報告書等が受注者から提出された後、発注者（検査員）の検査をもって完了とする。
- 2 発注者の検査時に発注者が所定書類以外の書類を求めた場合は、その指示に従い、提出することとする。
- 3 受注者は、当該年度終了時及び契約業務終了時に係る当該月の業務検査に合格した場合でも、当該年度終了時及び契約業務終了時における業務検査に合格しなければ、当該月に係る業務委託料の支払いを請求することができない。

第16節 施設等の使用

- 1 受注者は、業務場所を職場と心得て、常に整理整頓、清掃、清潔に心がけ、すべての作業員に徹底させるとともに、業務を効率よく安全かつ適正、迅速に施行すること。
- 2 受注者は、処理場等施設の一部を事務室として使用する場合には、発注者の許可を受けるとともに受注者の責任において維持管理を行わなければならない。
- 3 事務室等の使用期間中、受注者の原因により汚損等があった場合は、受注者の負担により原状回復しなければならない。
- 4 本業務の実施にあたって必要となる光熱水費については、処理場内の既設施設利用を認め、その料金は無償とする。
- 5 業務に直接係る事務室等の使用に伴う電気、ガス、水道等の使用にあたっては節約に努めなければならない。
- 6 受注者は、委託施設の火災の発生を未然に防止するため、火気の正確な取扱い及び後始末を徹底させ、火災防止に努めなければならない。
- 7 本業務の履行で必要となる特殊工具等は備え付けの備品類の利用を認めるものとする。

第1編 総則  
第1章 一般事項

備品類の使用後は必ず清掃等を行い長年使用できる備品類とすること。

備品類が老朽化等で損傷した場合は、発注者に報告して発注者が補修又は修繕を行うものとする。

ただし、受注者の乱雑又は粗末な使用で損傷した場合は、受注者の負担において、復旧又は新規納品を行うこと。

#### 第17節 受注者の費用負担

次に掲げる費用は受注者の負担とする。事務経費及び受注者が業務履行に必要とする備品以外の詳細は物品調達業務に記載すること。

- 1 受注者が専ら使用する什器、備品、事務機、事務用消耗品
- 2 報告及び記録用紙類
- 3 業務履行に必要な安全対策器具類
- 4 汎用工具類及び簡易計測機器類
- 5 連絡用自動車及びこれに必要な燃料費等
- 6 業務履行に必要となる特殊車両及びこれに必要な燃料費等
- 7 その他受注者と発注者との協議により決定した費用

#### 第18節 発注者の費用負担

次に掲げる費用は発注者の負担とする。

- 1 本業務に直接係る電気、水道等の光熱水費
- 2 発注者と受注者との協議により決定した次の費用
  - (1) 機器等の修繕補修費用
  - (2) 物品調達業務に示す消耗品以外の請求後に必要と認められた部品等
  - (3) その他決定した費用負担

#### 第19節 緊急時の体制

受注者は、大雨、台風、地震、その他重大事故等（施設の損壊、設備の重大な損壊、不時の停電、水質の悪化及び機器異常等）の緊急事態に備え、1時間以内に業務従事者を非常招集できる体制を確保しなければならないこととする。

#### 第20節 緊急時の措置

受注者は、大雨、台風、地震、その他重大事故等の緊急事態が発生した場合にはその状況を発注者に報告するとともに、対応を協議しなければならない。なお、緊急時の運転等について発注者が指示した場合は、発注者の指示に従い、運転方法の変更やその他の対応措置を行うものとする。

## 第21節 事故の報告

受注者は、業務の履行中に事故が発生した場合は、直ちに、必要な措置を講じるとともに、事故の発生原因、被害状況、経過及び講じた措置等について逐次、発注者に文書等により速やかに報告しなければならない。

## 第22節 安全の確保

- 1 受注者は、労働安全衛生法及びその他関係法令の定めるところにより、業務上守らなければならない安全に関する事項を定めるとともに、安全管理に必要な措置を講じ、定期的に安全教育を行い、労働災害の発生防止に努めなければならない。
- 2 受注者は、業務の履行にあたり、適切な作業方法の選択及び適正な作業員の配置を行い、危険防止に努めなければならない。
- 3 受注者は、業務の履行場所及びその付近で行われる他の委託、修繕及び工事がある場合は、常に協力して安全管理に支障が無いように措置を講じなければならない。
- 4 受注者は、業務の履行にあたり安全上の障害が生じた場合には、直ちに必要な措置を講じるとともに、発注者に文書等により報告を行い、追加措置について協議しなければならない。

## 第23節 故障時の対応

- 1 受注者は、施設、設備、機器類の故障、異常が発見又は発生した場合は、直ちに調査、点検、復旧（仮復旧）を行うこととする。また、調査、点検後は発注者にその故障内容等について詳細な報告を行わなければならない。なお、対応が困難な場合には発注者に連絡し、指示を受けるものとする。
- 2 再発防止に必要な措置に生じた新たな別途費用が発生する場合はその負担については協議の上決定するものとする。

ただし、機器等の障害除去及び再発防止措置を行った結果、再度障害が発生した場合には発注者に報告し、復旧方法について協議の上決定して、復旧するものとする。

## 第24節 施設の保全

- 1 管理する施設等の敷地内外への入退場は、門扉等の施錠管理で行うこととする。
- 2 受注者は、業務の実施にあたっては、既存の構造物等に損傷を与えないようにしなければならない。
- 3 受注者は、万一、損傷等を与えた場合は、発注者に報告し、協議の上、受注者の責任において復旧しなければならない。

## 第25節 統計等の調査

受注者は、発注者から統計等に関する調査の協力依頼があった場合は、管理する施設に関する調査内容の統計等に協力して、指示された期日までに報告することとする。

報告等の様式については、発注者からの指示によるものとする。

## 第26節 人権研修の実施

受注者は、当該委託業務の実施にあたっては、人権について正しい認識をもって業務を遂行できるよう、人権啓発にかかる研修（自治体等が実施する人権啓発研修等への参加をもって代えることを含む。）を行うものとし、その内容を別紙 1-1「人権研修実施報告書」により発注者に報告しなければならない。

## 第27節 他事業への協力

発注者等が行う工事、修繕、業務、調査、研究、行事及び見学者対応に対して本業務内で可能な限り協力することとする。

## 第28節 業務の引継ぎ

- 1 契約の終了により受注者に変更が生じる場合は、本業務の継続的かつ確実な履行を確保するため、現受注者から新受注者へ業務の引継ぎを行うものとする。この場合の経費は本業務に含むものとする。
- 2 業務引継ぎは、引継書及び現地指導によることとし、引継書の内容については、発注者の承諾を得なければならない。
- 3 この場合、現受注者は、新受注者の業務遂行に支障をきたさないよう、引継文書の引継ぎとともに、技術指導を行うものとする。なお、業務の引継ぎに要する費用は、新受注者の負担とする。
- 4 引継文書に関しては、対象施設固有の運転及び保守管理上の留意点を把握できる内容とし、次の各事項に添って記載すること。
  - （1）各施設設備の留意すべき特有や固有の状況
  - （2）定常時及び非定常時の調節器及び各設備の設定状況
  - （3）特有の運転方法、運転上の特別な操作及び運用方法
  - （4）その他の留意事項
- 5 受注者は、契約満了時に伴う業務を引き継ぐ際には、当該施設の機能確認の結果、所定の機能が受注者の責めに帰すべき事由により確保されていないときは、受注者の責において原型に復旧させることとする。

## 第29節 守秘義務

第1編 総則  
第1章 一般事項

受注者は、当該施設、当該業務に関して、本業務上知り得た情報や秘密を本業務終了後においても、口外・複写・複製・閲覧・貸し出し等によって第三者に漏洩、利用に供してはならない。

第30節 遵守事項

- 1 受注者は、法令に基づく社会保険に加入していること。
- 2 受注者は、業務履行にあたり、暴力団等からの不当要求又は業務妨害等を受けた場合は、福知山市暴力団等排除措置要綱に基づき速やかに発注者に報告し、警察署に届け出ること。

第31節 疑義等

仕様書に定めのない事項又は疑義が生じたときは、発注者、受注者の双方協議の上、定めるものとする。

第32節 その他

仕様書に記載されていない事項であっても、本業務を履行するために当然必要となる事項は、本業務に含むものとする。

第33節 関係法令等

- 1 下水道法
- 2 浄化槽法
- 3 水質汚濁防止法
- 4 環境基本法
- 5 建設業法
- 6 建築基準法
- 7 消防法
- 8 電気事業法
- 9 電気用品取締法
- 10 労働基準法
- 11 労働安全衛生法
- 12 騒音規制法
- 13 振動規制法
- 14 大気汚染防止法
- 15 悪臭防止法
- 16 ダイオキシン類対策特別措置法
- 17 ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法

第1編 総則  
第1章 一般事項

- 18 廃棄物の処理および清掃に関する法律
- 19 労働者災害補償保険法
- 20 石綿関連法
- 21 改正省エネ法
- 22 福知山市暴力団排除措置要綱
- 23 電気設備基準
- 24 電気規格調査会 標準規格（J E C）
- 25 日本電機工業会 標準規格（J E M）
- 26 内線規定（J E A C）
- 27 日本電信電話株式会社 技術基準
- 28 京都府環境を守り育てる条例
- 29 福知山市下水道条例
- 30 その他関係法令・条例・規格等

第1編 総則  
第2章 特記事項

第2章 特記事項

第1節 目的

本特記事項は、発注者が発注する業務に適用するものであり、業務を適正かつ円滑に実施するための必要な事項を定めるものである。

第2節 概要

- 1 発注者が管理する第1編第1章第3節に示す委託対象区域の管理施設において、福知山市が定める計画や関連する諸法令の基準に基づき、処理区域から流入する汚水の水質管理、汚泥管理、施設の管理及び清掃を計画的に実施し、施設を適正な運転管理と常時に監視することにより法令に定める放流水質を遵守するものである。
- 2 福知山終末処理場管理棟監視室に設置している監視通報装置などにより、福知山市全域内で監視可能である施設等を監視するものである。
- 3 発注者が管理する管路施設やその他指定する施設が継続的に安全かつ安定して使用ができるよう管理を行うものである。

第3節 対象施設

1 福知山市公共下水道区域

(1) 福知山終末処理場

(2) 和久市ポンプ場

①和久市第1ポンプ場、②和久市第2ポンプ場

(3) 公共汚水中継ポンプ場（以下、本章以降は「公共」を省略。）

①蛇ヶ端汚水中継ポンプ場、②日吉ヶ丘汚水中継ポンプ場、③段畑汚水中継ポンプ場、④段汚水中継ポンプ場、⑤上松汚水中継ポンプ場、⑥土汚水中継ポンプ場、⑦興汚水中継ポンプ場、⑧場内汚水中継ポンプ場、⑨新庄汚水中継ポンプ場、⑩庵我汚水中継ポンプ場、⑪かしの木台汚水中継ポンプ場、⑫石本汚水中継ポンプ場

(3) 雨水排水ポンプ施設（スクリーン含む）

①段畑雨水ポンプ場、②東堀雨水ポンプ場、③駅南雨水ポンプ場

(4) 合流区域貯留施設（水中汚水ポンプ含む）

①中部ＣＳＯ貯留施設、②西本町貯留施設、③駅前町貯留施設、④内記貯留施設

(5) 雨水貯留施設（スクリーン、水中ポンプ含む）

①仲ノ坪貯留施設、②仲ノ坪北貯留施設、③地藏ヶ端貯留施設、④土師新町貯留施設、⑤大正東貯留施設、⑥高田貯留施設、⑦沢貯留施設、⑧梅原貯留施設、⑨土師宮町貯留施設、⑩小谷ヶ丘貯留施設、⑪西池貯留施設、⑫法川排水区雨水排水路

第1編 総則  
第2章 特記事項

- (6) 処理区域内の污水管きょ施設（管路、マンホールポンプ）
  - (7) 主要な水管橋
  - (8) 樋門施設等
    - 和久市樋門、段畑樋門、上井樋門、蛇ヶ端雨水排水路ゲート
  - (9) 主要な雨水排水路
  - (10) その他発注者が指定する施設
- 2 福知山市特定環境保全公共下水道区域（福知山処理区）
- (1) 処理区域内の污水管きょ施設（管路、マンホールポンプ）
- 3 福知山市特定環境保全公共下水道区域（三和处理区）
- (1) 三和浄化センター
  - (2) 寺尾污水中継ポンプ場
  - (3) 処理区域内の污水管きょ施設（管路、マンホールポンプ）
  - (4) 主要な水管橋
  - (5) その他発注者が指定する施設
- 4 福知山市特定環境保全公共下水道区域（大江中部処理区）
- (1) 大江中部浄化センター
  - (2) 污水中継ポンプ場
    - ①波美污水中継ポンプ場、②金屋污水中継ポンプ場
  - (3) 処理区域内の污水管きょ施設（管路、マンホールポンプ）
  - (4) 主要な水管橋
  - (5) その他発注者が指定する施設
- 5 福知山市農業集落排水処理区域
- (1) 污水处理場
    - ①宮大内污水处理場、②田野污水处理場、③佐賀污水处理場、④上豊富污水处理場、⑤福知山北部污水处理場、⑥菟原污水处理場、⑦川合污水处理場、⑧井田額田污水处理場、⑨向污水处理場、⑩千原污水处理場、⑪高内日置污水处理場、⑫小倉污水处理場、⑬上夜久野污水处理場、⑭大江河東污水处理場、⑮北有路污水处理場、⑯有路污水处理場
  - (2) 各処理区域内の污水管きょ施設（管路、マンホールポンプ）
  - (3) その他発注者が指定する施設



6 福知山市簡易排水処理区域

- (1) 大原污水处理場
- (2) 処理区域内の污水管きょ施設（管路、マンホールポンプ）
- (3) その他発注者が指定する施設

第4節 施設規模及び施設位置図

別紙 1-2「処理施設規模」及び別紙 1-3「処理施設位置図」参照

第5節 管理地区名称

発注者が維持管理上に関する区域名称について、本節以降は次の管理地区名称とする。この管理地区内の対象施設は次のとおりとする。

- (1) 公共地区
  - ①福知山市公共下水道区域の対象施設
  - ②福知山市特定環境保全公共下水道区域（福知山処理区）の対象施設
- (2) 特環地区
  - ①福知山市特定環境保全公共下水道区域（三和处理区）の対象施設
  - ②福知山市特定環境保全公共下水道区域（大江中部処理区）の対象施設
- (3) 農集福知山東部地区
  - ①同章第3節の「5 福知山市農業集落排水処理区域」に示す污水处理場の内①～③とその処理区域内の污水管きょ施設などの対象施設
- (4) 農集福知山西部地区
  - ①同章第3節の「5 福知山市農業集落排水処理区域」に示す污水处理場の内④及び⑤とその処理区域内の污水管きょ施設などの対象施設
- (5) 農集福知山南部地区
  - ①同章第3節の「5 福知山市農業集落排水処理区域」に示す污水处理場の内⑥及び⑦とその処理区域内の污水管きょ施設などの対象施設
  - ②福知山市簡易排水処理区域の対象施設
- (5) 農集福知山北部地区
  - ①同章第3節の「5 福知山市農業集落排水処理区域」に示す污水处理場の内⑧～⑯とその処理区域内の污水管きょ施設などの対象施設

第6節 運転管理計画

管理施設に別の業者が立ち入ることがあるため、契約外業務のものも考慮し、発注者との協議の上運転管理計画を作成し、発注者の承諾を得てから管理を進めることとする。

## 第7節 運転操作管理

管理施設に設置する設備等について、常時監視を行いながら、日常的に点検や記録を実施して、安定した設備等の運転操作管理を行うこととする。また、現場作業指示や異常処置事項等の情報収集、とりまとめを行うこととする。

## 第8節 運転監視に関する業務

- 1 完成図書、取扱説明書等に定める運転方法及び実施計画書に基づき、管理技術者等の指揮のもと、運転操作監視を適正に行うこととする。

この場合、運転操作監視とは、中央監視室における監視、操作及び記録、現場操作作業、各設備計器値の記録並びに管理日報等の作成をいう。

- 2 大規模な運転の停止及び再運転をするときは、発注者と協議の上実施すること。
- 3 設備又は機器等に異常を発見したときは、発注者に報告書を提出するとともに、原因を調査し適切に対処することとする。

なお、報告を怠った場合は受注者の責任において、受注者の負担でこれを処理すること。

- 4 変化する処理条件に対しても、施設等の性能を踏まえた適正な処理を行うとともに、施設等の延命化に資する適切な運転操作及びこれを安定して維持するための運転監視を連続的に行うこととする。
- 5 受注者は廃棄物等が発生した場合、分別し、適正に処理すること。

## 第9節 保守点検

- 1 受注者は、施設等の状況に応じて、その運転状況を確認するとともに、故障の予防、早期発見に努めなければならない。
- 2 施設等有している機能を正常に発揮し、かつ設備機器等の延命化を図るための日常点検、定期点検、臨時点検、定期自主点検、高度な専門的技術又は知識等を要する点検及び整備の実施計画を作成することとする。

### (1) 日常点検

運転状態の機器及び設備について、異常の有無・兆候を発見するために行う点検とし、主に目視、触感、確認、調整及び記録等の作業とする。

### (2) 定期点検

機器の損傷、腐食及び摩耗状況を把握し、修繕等の保全計画を立てる目的と、定期的な機器の整備項目を行う点検整備とする。整備項目定期期間を1ヶ月、2ヶ月、3ヶ月、6ヶ月、1年などとし、機器類の補修塗装も含むものとする。

### (3) 臨時点検

故障警報時、設備に異常が発生した場合は、直ちに実施する点検整備とする。

### (4) 定期自主点検

第1編 総則  
第2章 特記事項

法令等に定められた自主点検とする。

3 高度な専門的技術又は知識等を要する点検、整備において点検の仕様等について発注者と協議し、承諾を得ること。

4 業務対象施設に対して、当然必要と認められる技術的変更が生じた場合は、発注者の承諾にもとづき、誠実に実施すること。

この変更に伴う費用負担は協議の上、決定することとする。

変更終了後、完成図書等の内容修正を遅滞なく行うこと。

5 各施設に設置の回転機器について、運転中に点検する場合は、巻込等に注意して実施すること。

6 高所での機器等の日常確認作業や清掃作業においては、ヘルメットや墜落制止用器具等を装着して安全に作業を行うこと。

7 点検作業は、労働安全衛生法等の関係法令を遵守し、安全に行うこと。

8 本業務施行中に必要となる機器類の部品及び予備品については、部品表等を作成して発注者に報告することとする。

報告後、必要と認められた場合は支給するものとする。

9 施設内外の照明は、必要場所及び必要時間以外は消灯すること。

退室時には必ず消灯などの確認を行うこと。

#### 第10節 簡易的故障修理

点検実施者が勤務時間内にできる作業とし、外部より作業者を求めることなく、特殊な機器・部品、または高度な専門技術を必要としない修理は契約に含むものとする。

#### 第11節 法定点検・定期自主点検等

管理施設に設置している設備などの法令等に定められた法定点検及び定期自主点検は、本業務に含むものとする。対象とする点検設備等は、別途記載する。

#### 第12節 放流水質等の基準

受注者は、処理場に流入した下水を各処理工程において適正に管理し、最終的に放流水域に法定基準で定める基準を満たした上で放流することとし、処理施設が正常な能力を発揮するよう管理に努めること。また、放流水質等の目標値を達成できない場合は、次のとおりとする。

##### (1) 未達状況の確認及び報告

計測により放流水質が、その目標値を達成できていないことを把握した場合は、速やかに発注者に報告すること。

##### (2) 未達状況の確認及び報告

第1編 総則  
第2章 特記事項

- ①原則として主体的に原因究明を行い、放流水質等の目標値の未達成状況に応じて、改善計画書を提出すること。
- ②原因究明、改善計画書の作成及び実施にかかる費用は、受注者の負担とする。
- ③受注者は、自らの負担で行う計測において、改善対応の効果を確認し、改善の状況を報告すること。

第13節 汚泥処理物性状等の基準

受注者は、処理場から発生する汚泥を各処理工程において適正に管理し、最終的に下水道施設から場外搬出する場合は、その搬出汚泥の性状などが処分受け入れ先の基準を満たすように処理を行うこととし、処理施設が正常な能力を発揮するよう管理に努めること。また、汚泥処理物性状等の目標値を達成できない場合は、次のとおりとする。

(1) 未達状況の確認及び報告

計測により汚泥処理物性状が、その目標値を達成できていないことを把握した場合は、速やかに発注者に報告すること。

(2) 未達状況の確認及び報告

- ①原則として主体的に原因究明を行い、汚泥処理物性状等の目標値の未達成状況に応じて、改善計画書を提出すること。
- ②原因究明、改善計画書の作成及び実施にかかる費用は、受注者の負担とする。
- ③受注者は、自らの負担で行う計測において、改善対応の効果を確認し、改善の状況を報告すること。

第14節 受注者の責任の免除

次の項目に該当する場合は、法定の水質基準及び汚泥処理、処分の受け入れ先の基準を超えた場合でも、受注者の責任を問わないものとする。

- (1) 適切な運転監視においても、時間最大計画流入量を超える水量が流入した場合
- (2) 発注者の指示に基づく運転変更等に起因する場合
- (3) 処理場の施設又は水質に重大な影響を及ぼす有害物質が流入した場合
- (4) 発注者が別途行う工事、修繕等の影響で施設の処理能力が低下した場合
- (5) 天災に起因する場合
- (6) その他受注者の責に帰することが出来ない要因による場合

第15節 発注者による放流水の監視、立入検査

発注者(発注者から委託を受けた機関を含む。)は、施設機能の確認または受注者の業務履行状況について監視を行うために、受注者に通知した上で施設に立ち入ることが出来る。また、説明の求めに対し、受注者はこれに協力するものとする。

#### 第16節 故障、事故発生時の対応

- 1 受注者は、施設等の運営に重大な支障を及ぼすような故障、事故を発見した場合は、事態の波及防止対策を講ずると共に、発注者に報告すること。
- 2 故障や障害を除去して、再発を防止するための必要な措置に別途費用が発生する場合は、その内容により協議の上決定するものとする。

ただし、業務履行範囲外の作業で施設に支障等を起こした場合は、受注者の負担においてこれを処理すること。また、これに伴う作業を実施した場合は、写真を添付した報告書を提出すること。

#### 第17節 備品及び備付けの工具類

- 1 本業務履行にあたり、施設内設置の備品及び備付けの工具類については、本業務で必要な範囲で使用を認めるものとする。
- 2 使用を認めた備品及び工具類は、常に丁寧かつ清潔に使用するとともに、整理整頓や整備にも心掛けること。
- 3 備品及び備付けの工具類について台帳を作成し、その保管状況を把握し、毀損、盗難、紛失等があった場合は、受注者の責において補充すること。
- 4 使用中の備品及び工具類が老朽化等により損傷した場合は、発注者にて補修または修繕を行うものとする。

但し、使用者の取り扱いの起因による損傷の場合は、受注者の負担において、補充すること。

#### 第18節 環境整備

- 1 受注者は、施設を衛生的に維持し、良好な環境を常に確保すること。
- 2 環境整備に関して、発注者及び付近の住民等より、是正、苦情等が発生した場合は、直ちに対応すること。また、その結果について記録し保管することとし、その記録に対して、発注者の求めがあった場合は速やかに提出すること。
- 3 悪臭や騒音の発生その他環境被害を防止するため、設備の運転方法、保守点検、作業方法、機能確認等を適切に行うほか、発生源又は敷地境界等では、必要に応じて機器による測定を行うなど、常に良好な環境を維持すること。
- 4 各種測定結果に異常値が確認された場合は、速やかに発注者へ報告するとともに、測定頻度を増すなど監視の強化を行うほか、効果的な改善策を実施すること。また、実施結果について記録し保管するものとし、発注者の求めがあった場合は速やかに提出するものとする。

### 第19節 物品等の管理

- 1 受注者は、施設・設備・機器類の運転管理及び整備・点検に要する薬品類及び潤滑油脂類・消耗品等の調達・使用及び管理を行うこと。
- 2 調達物品は、良好な品質及び適正な規格の物とし、施設・設備・機器の運転管理に影響が出ないようにすること。
- 3 常に在庫数量を把握して適宜補充するなど、在庫不足や品質低下に陥ることなく施設・設備・機器類の運転管理に支障が出ないように保管管理すること。
- 4 薬品類及び潤滑油脂類・消耗品等の管理責任者を定め、適正に使用管理を行うこと。
- 5 納入品及び数量を記録、保管し、その記録に対して発注者の求めがあった場合は速やかに提出すること。
- 6 管理施設で使用する薬品類は、別途記載する。

### 第20節 業務開始時の機能確認

- 1 発注者及び受注者は、業務履行開始時まで双方立会いのもと、施設又は設備の機能確認又は状況確認（以下、「機能等」という。）を行う。
- 2 受注者は、前項の機能等を確認の後、その確認結果を記載し、確認終了日から14日以内に発注者に提出し、承諾を受けなければならない

### 第21節 業務実施期間中における機能確認

- 1 発注者及び受注者は、必要があると認めるときは、相手方に対し施設及び設備の全部または一部の機能等の確認を行うことを求めることができる。この場合においては、速やかに双方立会いのもと、機能等の確認を行う。
- 2 受注者は、必要とした当該機能等の確認が完了したときは、その確認結果を確認書に記載し、その上、確認完了日から14日以内に発注者に提出して、承諾を得ること。
- 3 発注者は、必要とした当該機能等の確認の結果、所定の機能等が確保されないと認められたときは、受注者に必要な対応を行うよう指示することができる。

### 第22節 契約終了時の機能確認

- 1 委託期間終了に当たっては、発注者及び受注者は、契約終了日までに、双方立会いのもと、施設等の機能等の確認を行う。
- 2 発注者又は受注者が、契約解除することによりこの契約が終了したときは、発注者及び受注者は、契約終了日から14日以内に、双方立会いのもとで施設等の機能等の確認を行う。
- 3 受注者は、前項の機能等の確認が完了したときは、その確認結果を確認書に記載し、その上、確認終了日から14日以内に発注者に提出して承諾を受けなければならない。

- 4 受注者は、当該機能等の確認の結果、所定の機能が受注者の責めに帰すべき事由により確保されないときは、発注者に損害賠償をしなければならない。

#### 第23節 時間外勤務の対応

- 1 業務上、時間外勤務が必要な場合は、必要な人員を受注者の判断にて動員すること。
- 2 時間外勤務手当については、委託の中に含まれるものであるが、大規模災害や重大事故等による場合は、発注者と協議の上決定するものとする。

#### 第24節 経費の負担

- 1 施設に係る経費のうち別に定めるものは、受注者の負担とする。
- 2 業務執行に関する費用は、各管理地区業務内費用のみ流用可能とする。なお、費用流用に関しては、施設管理上の業務履行に際して、必要とする事項の費用が不足する場合とし、他の業務費用の執行状況や計画を確認した上で、発注者の承諾を得たのちに、費用の流用ができるものとする。

#### 第25節 受注者による投資の提案

- 1 受注者は、業務の効率的、効果的な履行を図るために、自らの責任と負担において設備の設置及び既存設備の改良を、発注者に対して提案することができるものとする。
- 2 提案内容の実現には、発注者の可否の承諾を得るものとする。
- 3 受注者は、提案に基づく工事を行った場合、その概要について発注者へ報告することとする。
- 4 契約期間終了時には、受注者の負担で原型復旧するものとするが、設備機器等の改造で復旧が困難な物、復旧が好ましくない物等、特別な理由がある場合は、双方協議の上決定する。

#### 第26節 その他事業への協力

- 1 施設見学及び職場体験等の対応

下水道施設の見学申し込みがあった場合、見学者の安全に十分配慮し、施設の説明案内を行うこととする。また、中学校職場体験学習及びインターンシップについても、発注者と協議の上、対応することとする。

- 2 イベントへの協力

福知山市及びその他団体が主催するイベントについて、発注者が受注者と施設敷地内の一部使用を協議の上、決定した場合は、その使用場所の使用に協力することとする。

#### 第27節 管理地区内の別業務

第1編 総則  
第2章 特記事項

- 1 本業務の管理地区内で、発注者が別途発注する業務について本業務の履行や施設管理、運操作との関係性において必要とした場合は、その業務の内容を受注者の管理区分と併せて協議を行うものとする。



人権研修実施報告書

業 務 名	下水業 第 号 業務
実 施 日 時	年 月 日 ( ) : ~ :
参 加 人 数	人
種 別 (あてはまる箇所 にチェック)	<input type="checkbox"/> 同和問題(部落差別) <input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> 子ども <input type="checkbox"/> 高齢者 <input type="checkbox"/> 障害のある人 <input type="checkbox"/> 外国籍の人 <input type="checkbox"/> 感染症患者など <input type="checkbox"/> 情報化社会 <input type="checkbox"/> 性的マイノリティ <input type="checkbox"/> 平和問題 <input type="checkbox"/> 沖縄の人々 <input type="checkbox"/> アイヌの人々 <input type="checkbox"/> その他 ( )
内 容 と 成 果	

年 月 日  
上記のとおり報告します。  
事業者名  
  
代表者名

所 管 課 (※発注課押印欄)			
課 長	課長補佐	係 長	係

人権研修実施報告書

【記入例】

業 務 名	〇〇第〇号 〇〇〇〇〇〇〇〇 業務
実 施 日 時	令和 6 年 1 0 月 1 日 (火) 1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 0 0
参 加 人 数	3 0 人
種 別 (あてはまる箇所にチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 同和問題（部落差別） <input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> 子ども <input type="checkbox"/> 高齢者 <input type="checkbox"/> 障害のある人 <input type="checkbox"/> 外国籍の人 <input type="checkbox"/> 感染症患者など <input type="checkbox"/> 情報化社会 <input type="checkbox"/> 性的マイノリティ <input type="checkbox"/> 平和問題 <input type="checkbox"/> 沖縄の人々 <input type="checkbox"/> アイヌの人々 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 公正採用について ）
内 容 と 成 果	DVD を視聴し、部落差別に係る就職差別について話し合いを行い、公正採用、企業の果たすべき役割、差別の解消について理解を深めることができた。

年 月 日  
上記のとおり報告します。

事業者名

代表者名

所 管 課 （※発注課押印欄）			
課 長	課長補佐	係 長	係

処理施設規模（処理場）

処理場名	処理方式		処理能力
	水処理	汚泥処理	
福知山終末処理場	標準活性汚泥法	終末処理場内汚泥と外部受入汚泥を汚泥有効利用施設により、固形燃料化処理	A系：44,020m <sup>3</sup> /日 B系：17,980m <sup>3</sup> /日 計 62,000m <sup>3</sup> /日
三和浄化センター	オキシデーショニング方式	濃縮汚泥を搬出し福知山終末処理場で処理	1系： 900m <sup>3</sup> /日 2系： 900m <sup>3</sup> /日 計 1,800m <sup>3</sup> /日
大江中部浄化センター	オキシデーショニング方式	濃縮汚泥を搬出し福知山終末処理場で処理	1系：1,200m <sup>3</sup> /日 2系： 800m <sup>3</sup> /日 計 2,000m <sup>3</sup> /日
宮大内汚水処理場	接触ばっ気方式 (JARUS I型)	濃縮汚泥を搬出し福知山終末処理場で処理	306m <sup>3</sup> /日 (日最大)
田野汚水処理場	接触ばっ気方式 (JARUS I型)	濃縮汚泥を搬出し福知山終末処理場で処理	144m <sup>3</sup> /日 (日最大)
上豊富汚水処理場	オキシデーショニング方式	濃縮汚泥を搬出し福知山終末処理場で処理	1,069m <sup>3</sup> /日 (日最大)
佐賀汚水処理場	オキシデーショニング方式	濃縮汚泥を搬出し福知山終末処理場で処理	402m <sup>3</sup> /日 (日最大)
福知山北部汚水処理場	嫌気性濾床接触ばっ気方式 (JARUS III型)	濃縮汚泥を搬出し福知山終末処理場で処理	218m <sup>3</sup> /日 (日最大)
菟原汚水処理場	嫌気性濾床接触ばっ気方式 (JARUS III型)	濃縮汚泥を搬出し福知山終末処理場で処理	343m <sup>3</sup> /日 (日最大)

## 処理施設規模（処理場）

処理場名	処理方式		処理能力
	水処理	汚泥処理	
川合汚水処理場	沈殿分離接触ばっ気方式 (J A R U S I 型)	濃縮汚泥を搬出し福知山終末処理場で処理	142m <sup>3</sup> /日 (日最大)
井田額田汚水処理場	流量調整嫌気性濾床接触ばっ気方式 (J A R U S III 型)	濃縮汚泥を搬出し福知山終末処理場で処理	353m <sup>3</sup> /日 (日最大)
向汚水処理場	流量調整嫌気性濾床接触ばっ気方式 (J A R U S III 型)	濃縮汚泥を搬出し福知山終末処理場で処理	175m <sup>3</sup> /日 (日最大)
上夜久野汚水処理場	回分式活性汚泥方式 (J A R U S X I 型)	濃縮汚泥を搬出し福知山終末処理場で処理	524m <sup>3</sup> /日 (日最大)
高内日置汚水処理場	沈殿分離接触ばっ気方式 (J A R U S I 型)	濃縮汚泥を搬出し福知山終末処理場で処理	152m <sup>3</sup> /日 (日最大)
千原汚水処理場	連続流入間欠ばっ気方式 (J A R U S X IV 型)	濃縮汚泥を搬出し福知山終末処理場で処理	106m <sup>3</sup> /日 (日最大)
小倉汚水処理場	連続流入間欠ばっ気方式 (J A R U S X IV 型)	濃縮汚泥を搬出し福知山終末処理場で処理	115m <sup>3</sup> /日 (日最大)
大江河東汚水処理場	嫌気性濾床接触ばっ気方式 (J A R U S III 型)	濃縮汚泥を搬出し福知山終末処理場で処理	214m <sup>3</sup> /日 (日最大)
北有路汚水処理場	嫌気性濾床接触ばっ気方式 (J A R U S III 型)	濃縮汚泥を搬出し福知山終末処理場で処理	267m <sup>3</sup> /日 (日最大)
有路汚水処理場	嫌気性濾床接触ばっ気方式 (J A R U S III 型)	濃縮汚泥を搬出し福知山終末処理場で処理	317m <sup>3</sup> /日 (日最大)
大原汚水処理場	沈殿分離接触ばっ気方式 (F. R. P 合併処理浄化槽)	濃縮汚泥を搬出し福知山終末処理場で処理	33m <sup>3</sup> /日 (日最大)

処理施設規模（中継ポンプ場等）

項目	単位	和久市第1	和久市第2	段	蛇ヶ端	かしの木台	場内	日吉ヶ丘
敷地面積	㎡	4,240 ※1	1,330	2,970	1,410	460	-	540
稼動年度	年度	昭和41年	昭和48年	昭和47年	昭和56年	昭和53年	昭和54年	昭和57年
用途		汚水	汚水	同左	同左	同左	同左	同左
スクリン	機械掻揚式	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左
有効間隔	mm	25	40	25	25	20	25	20
台数	台	2	2	2	2	2	2	1
有効容量	㎥	9	-	41	9	1	15	0.4
沈砂池数	池	2	-	2	2	2	2	1
水面積負荷	㎡/㎡日	1,800	-	1,800	1,800	-	1,800	-
形式		水中渦巻	立軸斜流	立軸渦巻斜流	立軸渦巻斜流	水中汚水汚物	立軸渦巻斜流	水中汚水
揚水ポンプ								
口径	mm	250	450	500	250	150	350	80
揚水量	㎥/分	15.6	27.7	24.2	6.7	2.0	14	1.5
出力	kW(HP)	22	110	110	30	15	45	5.5
台数	台	1	3	3	2	2	3	3
形式		屋内閉鎖型	同左	同左	同左	同左	同左	同左
電圧	V	和久市第2より受電	一次 6,600	段畑雨水ポンプ場より受電	一次 6,300	低圧電力	福知山終末処理場より受電	低圧電力
設備容量	kVA	一次 210	二次 210	一次 6,600, 二次 210	二次 210	従量電灯	一次 6,600, 二次 210	従量電灯
契約電力	kW	-	718	-	200	-	-	-
		-	260	-	63	36	-	19
形式		三相交流発電機	同左	同左	同左	同左	-	三相交流発電機
発電容量	kVA	100	625	500	150	90	-	22.5
発電電圧	V	220	6,600	6,600	220	220	-	220
台数	台	1	1	1	1	1	-	1
使用燃料		A 重油	A 重油	A 重油	軽油	軽油	-	軽油

※1 和久市第1ポンプ場の敷地面積は、和久市第3ポンプ場（中部CS0貯留施設）の沈砂池設備の敷地面積を含んでいる。

処理施設規模（中継ポンプ場等）

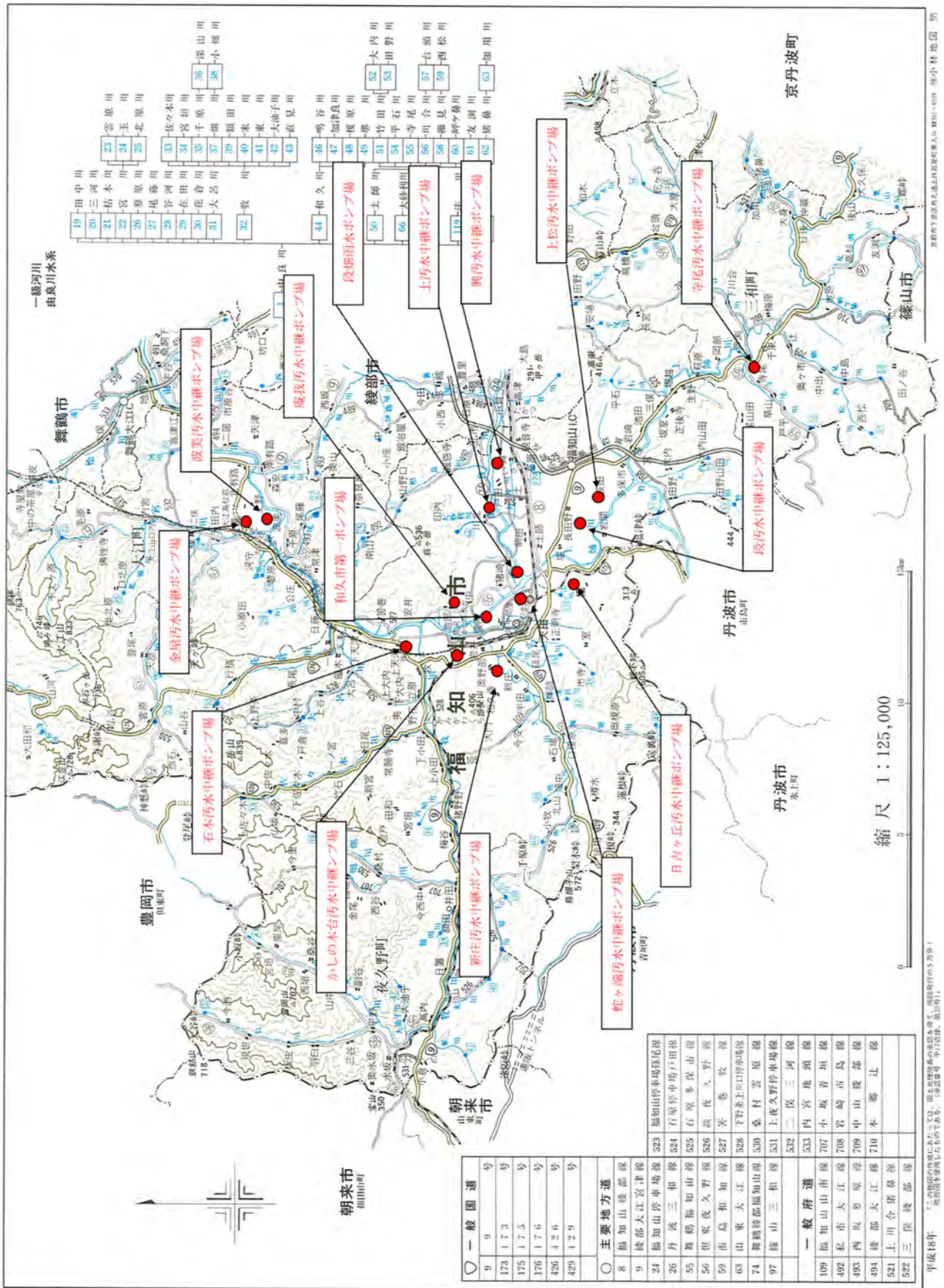
項 目	単 位	新 庄	段	上 松	庵 我	土	興	石 本	寺 尾	波美2	金屋2	段畑雨水
敷地面積	㎡	870	1,210	400	690	1,200	710	1,400	300	-	-	13,850
稼動年度	年度	昭和57年	昭和59年	昭和61年	昭和61年	平成2年	平成6年	平成11年	平成9年	平成10年	平成10年	令和2年
用途		汚水	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	雨水
形式		機械掻揚式	同左	同左	同左	同左	-	機械掻揚式	-	-	-	機械掻揚式
有効間隔	mm	20	20	20	20	20	-	20	-	-	-	40
台数	台	1	1	1	1	1	-	1	-	-	-	3
有効容量	㎥	1	5	1	2	3	-	0.6	-	-	-	10,000
砂池数	池	1	1	1	1	1	-	1	-	-	-	1
水面積負荷	㎡/㎡日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
形式		水中汚水	立軸スクリュュー渦巻	立軸渦巻	水中汚水	立軸渦巻斜流	水中汚水	同左	同左	同左	同左	立軸斜流
口径	mm	80	300	125	150	200	80	100	80	150	100	1,000
揚水量	㎥/分	1.5	7.3	1.6	1.9	3.9	0.8	1.1	0.9	1.6	1.4	144
出力	kW(HP)	5.5	90	11	22	37	7.5	18.5	7.5	22	18.5	290
台数	台	3	3	3	3	3	3	2	3	2	2	3
形式		屋内閉鎖型	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	屋内閉鎖型
電圧	V	低圧電力	一次 6,600	低圧電力	同左	一次 6,600	低圧電力	同左	同左	大江中部浄化センターより受電	低圧電力	一次 6,600
設備容量	kVA	従量電灯	二次 420	従量電灯	同左	二次 210	従量電灯	同左	同左	-	従量電灯	二次 210
契約電力	kW	-	300	-	-	150	-	-	-	-	-	773
		18	162	29	29	75	23	45	26	-	40	238
形式		三相交流発電機	同左	同左	同左	同左	同左	同左	同左	-	-	三相交流発電機
発電容量	kVA	40	260	60	150	150	40	62.5	43	-	-	250
発電電圧	V	220	420	220	220	220	210	210	220	-	-	210
台数	台	1	1	1	1	1	1	1	1	-	-	1
使用燃料		軽油	A 重油	軽油	A 重油	軽油	軽油	軽油	軽油	-	-	A 重油

## 処理施設規模（貯留施設）

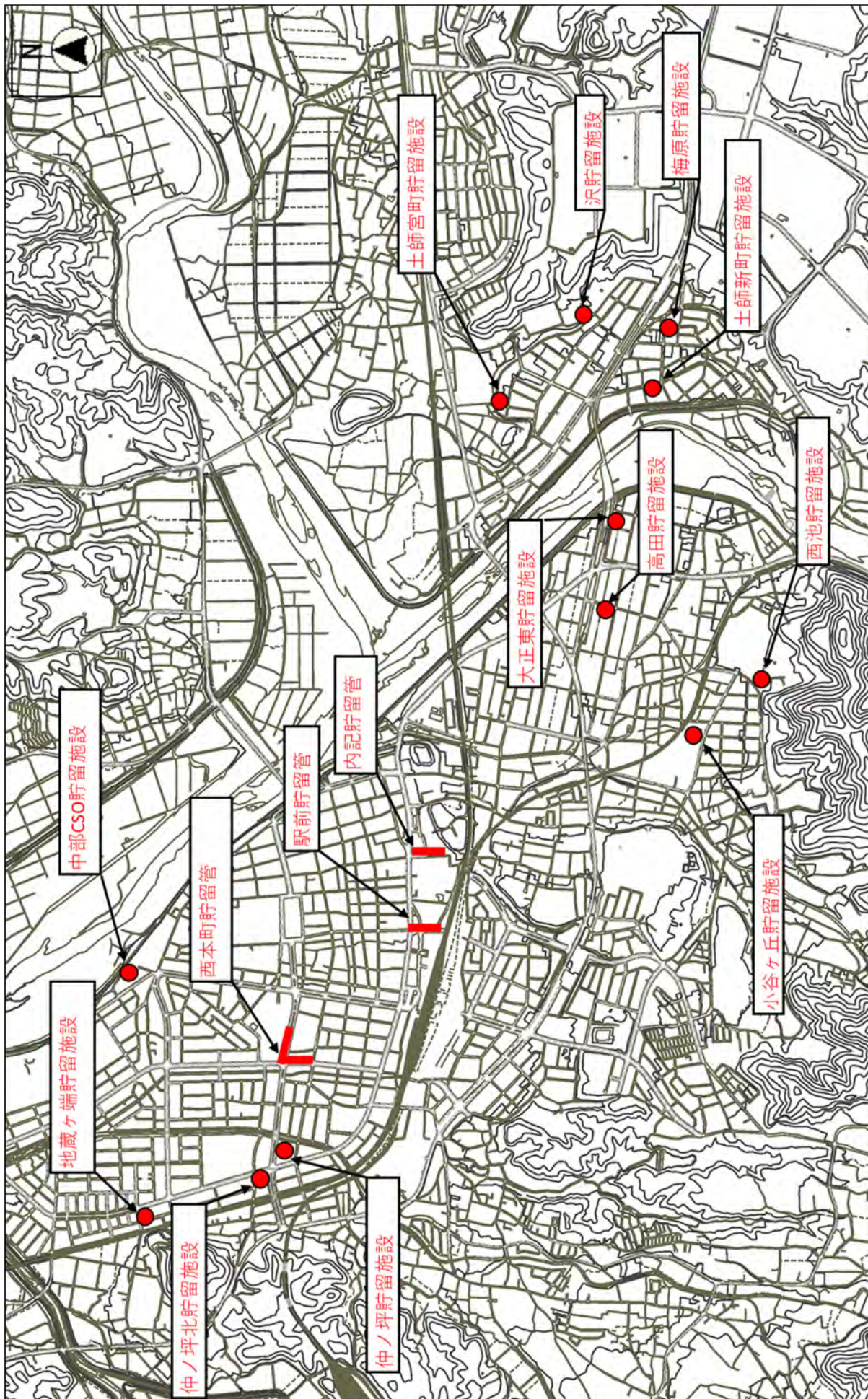
処 理 区 の 名 称	名 称	所 在 地	貯 留 能 力 単位：立方メートル	摘 要
福 知 山 処 理 区 中 部 系 統	西本町貯留施設	福知山市西本町、 北本町	2,520	浸水対策
	内記貯留施設	福知山市内記	3,100	浸水対策
	駅前貯留施設	福知山駅前町	1,670	浸水対策
	中部CSO貯留施設	福知山市和久市町	6,000	汚濁対策
弘 法 川 第 3 排 水 区	仲ノ坪貯留施設	福知山市篠尾新町	1,900	浸水対策
	仲ノ坪北貯留施設	福知山市篠尾新町	1,000	浸水対策
	地蔵ヶ端貯留施設	福知山市厚中間屋町	2,100	浸水対策
	小谷ヶ丘貯留施設	福知山市北小谷ヶ丘	2,400	浸水対策
法 川 第 1 排 水 区	西池貯留施設	福知山市南本堀	1,300	浸水対策
	高田貯留施設	福知山市東堀	2,400	浸水対策
法 川 第 2 排 水 区	大正東貯留施設	福知山市東堀	1,500	浸水対策
	土師新町貯留施設	福知山市土師新町	3,800	浸水対策
土 師 排 水 区	土師宮町貯留施設	福知山市土師宮町	1,600	浸水対策
	梅原貯留施設	福知山市土師新町	1,500	浸水対策
	沢貯留施設	福知山市土師新町	1,200	浸水対策













第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務

第1章 下水道施設運転監視・保守管理業務

第1節 福知山終末処理場等運転操作管理・保守管理業務

1 管理施設

(1) 福知山終末処理場管理棟監視室

(2) 福知山終末処理場水処理施設

(3) 和久市ポンプ場

和久市第1ポンプ場、和久市第2ポンプ場

(4) 汚水中継ポンプ場

蛇ヶ端汚水中継ポンプ場、日吉ヶ丘汚水中継ポンプ場、段畑汚水中継ポンプ場、段  
汚水中継ポンプ場、上松汚水中継ポンプ場、土汚水中継ポンプ場、興汚水中継ポン  
プ場、場内汚水中継ポンプ場、新庄汚水中継ポンプ場、庵我汚水中継ポンプ場、か  
しの木台汚水中継ポンプ場、石本汚水中継ポンプ場、駅南1号～6号排水ポンプ施  
設（スクリーン）

(5) 段畑雨水ポンプ場

(6) 合流区域貯留施設

中部CSO貯留施設、西本町貯留施設、駅前町貯留施設、内記貯留施設

(7) 雨水貯留施設

仲ノ坪貯留施設、仲ノ坪北貯留施設、地藏ヶ端貯留施設、土師新町貯留施設、大正  
東貯留施設、高田貯留施設、沢貯留施設、梅原貯留施設、土師宮町貯留施設、小谷  
ヶ丘貯留施設、西池貯留施設、法川排水区雨水排水路

(8) 樋門施設等

上井樋門、蛇ヶ端雨水排水路ゲート、和久市樋門、段畑樋門

2 主な業務内容

(1) 監視室

ア 対象とする管理施設の運転管理・操作、監視及び記録を行うこととする。また、次  
に示す施設の遠方監視も行うこととする。

三和浄化センター、大江中部浄化センター、農業集落水排水污水处理場、マンホー  
ルポンプ場

イ 夜間監視を含めた24時間体制の業務とする。なお、出水期における夜間の監視  
においては、降雨の監視や対応するための体制を図ること。

ウ 管理施設の現地における操作作業等の指示

エ 管理日報の作成、その他指示値の記録及び集計

オ 現場作業事項及び突発事項等の情報収集

カ 点検記録、運転日報及び月年報の整理整頓

キ その他発注者から指示のあった事項

(2) 福知山終末処理場水処理施設

ア 次に示す設備等を水処理施設の範囲とする。

分配槽、最初沈澱池設備（A系、B系）、反応タンク設備（A系、B系）、最終沈澱池設備（A系、B系）、塩素混和池設備（A系、B系）、送風機設備、処理水再利用設備、し渣沈砂除去設備、雨天時排水ポンプ室、高架水設備、場内調圧槽、管理棟電気室内設備、非常用自家発電設備、附帯ポンプ設備・電気設備、建物附帯設備、10kL地下タンク貯蔵所（重油）

イ 業務履行期間中は、昼間に日常点検及び保守作業とする。

ウ 日常点検は毎日、保守点検は毎週1回実施する。ただし、特別な事情がある場合は、発注者と協議することとする。

エ 故障や異常発生時の現場調査及び措置対応

オ その他発注者から指示のあった事項

(3) 休止設備の保守管理

ア 次に示す設備等を本業務の範囲とする。

し尿投入施設、常圧浮上設備、汚泥濃縮貯留設備、汚泥コンポスト施設、30kL地下タンク貯蔵所（重油）

イ 業務履行期間中は、発注者からの指示により日常点検及び保守作業とする。

ウ 故障や異常発生時の現場調査及び措置対応

エ その他発注者から指示のあった事項

(4) 和久市ポンプ場

ア 業務履行期間中は、昼間に日常点検及び保守作業とする。

イ 日常点検は毎日、保守点検は毎週1回実施する。ただし、特別な事情がある場合は、発注者と協議することとする。

ウ 故障や異常発生時の現場調査及び措置対応

エ 雨水排水対応

オ その他発注者から指示のあった事項

(5) 汚水中継ポンプ場

ア 業務履行期間中は、昼間に日常点検及び保守作業とする。

イ 日常点検は毎日、保守点検は毎週1回実施する。ただし、特別な事情がある場合は、発注者と協議することとする。

ウ 故障や異常発生時の現場調査及び措置対応

エ 雨水対応

オ その他発注者から指示のあった事項

(6) 段畑雨水ポンプ場

- ア 業務履行期間中は、昼間に日常点検及び保守作業とする。
- イ 点検等は、毎週1回実施する。ただし、特別な事情がある場合は、発注者と協議することとする。
- ウ 故障や異常発生時の現場調査及び措置対応
- エ 雨水排水対応
- オ その他発注者から指示のあった事項

(7) 合流区域及び雨水の貯留施設

- ア 次に示す設備等を保守管理の対象施設とする。

西本町貯留管、内記貯留管、駅前貯留管、中部CSO貯留施設、仲ノ坪貯留施設、仲ノ坪北貯留施設、地蔵ヶ端貯留施設、小谷ヶ丘貯留施設、高田貯留施設、大正東貯留施設、梅原貯留施設、土師新町貯留施設、沢貯留施設、土師宮町貯留施設、西池貯留施設、法川排水区雨水排水路、駅南1号～6号排水ポンプ施設（スクリーン）

- イ 出水期前及び豪雨・台風前に、雨水貯留施設流入スクリーン及びその周辺の夾雑物を除去し、堆積物は適正な処分を行う。
- ウ 年2回の作業とし、点検等の時期は、発注者と協議のうえ決定することとする。

(8) 樋門施設等

- ア 次に示す設備等を保守点検の対象施設とする。

- ① 上井樋門（1号ゲート、2号ゲート、引込開閉器盤、操作盤）
- ② 蛇ヶ端雨水排水路ゲート（手動ピンラック式スライドゲート、バランスウエイト式フラップゲート）
- ③ 和久市樋門（ゲート、開閉機、その他付属施設）
- ④ 段畑樋門（ゲート、開閉機、制御盤、その他付属施設）

- イ 実施頻度

- ① 上井樋門、②蛇ヶ端雨水排水路ゲート施設の保守点検は年1回（出水期前）実施。
- ③和久市樋門の保守点検は月2回、河川内許可工作物に係る立会いは年1回（3ヵ年毎の実施でR10年度実施）する。
- ④段畑樋門の保守点検は月1回、河川内許可工作物に係る立会いは年1回（3ヵ年毎の実施でR8年度実施）する。

(9) 日直業務

- ア 日直業務は、発注者の執務時間外、土・日曜日、祝日、年末年始とする。

(10) その他業務

- ア 施設見学及び職場体験インターンシップ等の対応
- イ 福知山SECカーボンスタジアム使用に伴う臨時駐車場開放の対応

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第1章 下水道施設運転監視・保守管理業務

- ウ 福知山マラソン開催に伴う場内臨時駐車への対応
- エ 統計などの調査対応
- オ その他発注者から必要とした業務

第2節 薬品類の管理

- (1) 汚水処理に必要なとなる薬品類は、常に使用状況と在庫数を管理し、不足が無いように物品調達を行うこととする。
- (2) 汚水処理で使用する薬品は、次のとおりである。
  - ①塩素混和池（放流処理水）
    - ア 次亜塩素酸ナトリウム
      - (ア) 外 観 液体
      - (イ) 濃 度 有効塩素12%以上
      - (ウ) 納入量 145,000kg（年間見込み量）
- (3) 使用する薬品類が汚水処理の処理結果が想定と異なる場合、または、使用する薬品類により施設等に影響を及ぼす場合には、速やかに発注者に報告し、協議の上、新たな薬品類を使用することとする。
- (4) 物品調達とする薬品類は、本業務の変動費として取り扱うこととする。

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第2章 水質検査業務

第2章 水質検査業務

第1節 概要

福知山終末処理場からの放流水や処分される汚泥等の状況を定期的に測定し、基準値内であることを確認するための水質検査を行うものである。また、水質監視を目的に公共区域内で排出される事業所排水や汚水中継ポンプ場等の水質検査を行うものである。

第2節 公共下水道施設等における水質に係る検査業務

1 日常水質管理

(1) 業務概要

ア 公共下水道施設における水処理の正常性を確保するための自主検査

イ 放流先河川における占用条件のための定期検査

(2) 検査頻度、検体名及び検査項目

福知山終末処理場等の流入水、処理水、放流水や場内汚泥の水質検査を行う検体は、検査頻度ごとにまとめた表に示したとおりとする。なお、発注者からの依頼により、臨時的な検査についても協議により決定するものとする。

ア 毎日(採水はオートサンプラーによる機械採水)

検査項目		1箇所/年の年間採取数 汚水又は処理水	検体名 採取箇所数：4箇所	年間検体数
1	浮遊物質(SS)	365	A系最初沈澱池流入水 A系最初沈澱池流出水 B系最初沈澱池流出水 放流水	1,460

イー① 毎週(採水は手採水)

検査項目		1箇所/年の年間採取数 汚水又は処理水	検体名 採取箇所数：6箇所	年間検体数
1	気温	52	最初沈澱池流入水 A系最初沈澱池流出水 B系最初沈澱池流出水 A系最終沈澱池流出水 B系最終沈澱池流出水 放流水	312
2	水温	52		312
3	pH	52		312
4	浮遊物質(SS)	52		312
5	COD	52		312
6	BOD	52		312
7	全リン(T-P)	52		312
8	全窒素(T-N)	52		312
9	大腸菌	52		312
10	蒸発残留物	52		312

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第2章 水質検査業務

イー② 毎週(採水は手採水)

検査項目		1箇所/年の年間採取数 活性汚泥	検体名 採取箇所数：14箇所	年間検体数
1	M L S S (mg/L) (活性汚泥濃度)	52	A系反応タンク3池 A系反応タンク4池 A系反応タンク5池 A系反応タンク6池 A系反応タンク7池 A系反応タンク8池 A系反応タンク9池	728
2	M L V S S (%) (活性汚泥有機分)	52	A系反応タンク10池 B系反応タンク1池 B系反応タンク2池 A系活性汚泥 A系返送汚泥 B系活性汚泥 B系返送汚泥	728

イー③ 毎週(採水は手採水)

検査項目		1箇所/年の年間採取数 濃縮汚泥	検体名 採取箇所数：1箇所	年間検体数
1	汚泥含水率 (%)	40	初沈濃縮汚泥	40
2	汚泥有機分 (%)	40		40

ウ 毎月(採水は手採水)

検査項目		1箇所/年の年間採取数 (初沈引抜汚泥)	検体名 採取箇所数：1箇所	年間検体数
1	汚泥含水率 (%)	12	初沈引抜汚泥	12
2	汚泥有機分 (%)	12		12



第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第2章 水質検査業務

エ 半年（採水は手採水）

検査項目		1箇所での年間採取数 中継ポンプ場	検体名 採取箇所数：13箇所	年間検体数
1	気温	2	場内ポンプ場	26
2	水温	2	和久市ポンプ場	26
3	pH	2	段畑污水中継ポンプ場	26
4	浮遊物質(SS)	2	蛇ヶ端污水中継ポンプ場	26
5	COD	2	段污水中継ポンプ場	26
6	BOD	2	かしの木污水中継ポンプ場	26
7	全燐(T-P)	2	日吉ヶ丘污水中継ポンプ場	26
8	全窒素(T-N)	2	新庄污水中継ポンプ場	26
9	大腸菌	2	上松污水中継ポンプ場	26
10	蒸発残留物	2	庵我污水中継ポンプ場	26
			土污水中継ポンプ場	
			興污水中継ポンプ場	
			石本污水中継ポンプ場	

オ 四半期（採水は手採水、2・5・8・11月検査、前記月において雨水ポンプ稼働実績のない場合は省略）

検査項目		1箇所での年間採取数 河川占用	検体名 採取箇所数：2箇所	年間検体数
1	気温	4	和久市ポンプ場 終末処理場放流水	8
2	水温	4		8
3	pH	4		8
4	浮遊物質(SS)	4		8
5	COD	4		8
6	BOD	4		8
7	ATU-BOD	4		8
8	全燐(T-P)	4		8
9	全窒素(T-N)	4		8
10	大腸菌	4		8
11	蒸発残留物	4		8

（3）検査要領

ア 採水及び採泥等をするときは、採取記録をすること。

イ 採取した検体は、速やかに水質検査を行うこと。

ただし、速やかに検査が出来ない場合は、関係法令等の方法により措置を施すこと。

ウ 関係法令及び、水質測定方法手順書に基づき行うこと。

エ 各項目の検査結果が基準値の2分の1以上を超過した場合は、超過している項目を、速やかに発注者に報告すること。

オ 測定値が基準値内でない、もしくは検査結果が基準値を超過している場合は、その項目の再検査を実施すること。

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第2章 水質検査業務

カ 測定機器毎の誤差をなくするため、同一測定機器を用いて行うこと。

キ 受注者の用意した測定機器を使用する場合は、測定機器のリストと測定機器の校正記録又は、それに相当するものを提出すること。

(4) 検査結果報告書等

ア 検査結果報告書に、各施設の採水、採泥記録を記載すること。

イ 検査結果報告書は、採取日の10日以内に発注者に報告すること。

ウ 検査結果が基準値の2分の1以上を超過した場合は、超過している項目を速やかに発注者に報告すること。

エ 月報に水質検査結果及び次月の採取予定表を発注者に提出すること。

(5) 基準値超過

ア 本業務において、放流水質等の法定基準を達成できない場合は、次のとおり対応すること。

a 未達成状況の確認及び報告

放流水質が法定基準を達成できていないことを把握した場合は、速やかに発注者に報告すること。

b 改善計画書の提出

① 改善計画書の提出を命じられてから10日以内に改善計画書を発注者に提出し、発注者の指導、監督に従って原因究明や改善対応をすること。

② 原因究明、改善計画書の作成及び実施にかかる費用は、受注者が負担すること。

③ 受注者は、自らの負担で行う計測において、改善対応の効果を確認し、改善の状況を発注者に報告すること。

(6) 月報告書

月報告書は、各施設の検査結果報告書を完了届と共に提出すること。

(7) 年報告書

年報告書は、検査結果報告書及び週報告書のデータをそれぞれ、年ごとにまとめ、日平均値、最小値、最大値及び基準値を表記したものを、業務完了届及びエクセル形式データと共に提出すること。

(8) 維持管理年報資料の作成

発注者の指示に従い維持管理年報資料の作成を行うこと。

2 法定水質検査業務

(1) 業務概要

福知山終末処理場における流入水、放流水等の採水及び水質検査を行うものである。(※関係法令 下水道法第8条施行令第6条関係)

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第2章 水質検査業務

(2) 検査要領

ア 定期検査採水及び水質検査（年 12回：月1回）

①福知山終末処理場流入水

②福知山終末処理場放流水

イ 法定水質検査は、月に1回実施し、日常水質検査と同日に実施すること。

ウ ダイオキシシン類測定採水及び検査（年 1回：5月）

①福知山終末処理場流入水

②福知山終末処理場排水※

※ダイオキシシン類測定結果報告のため、排水としているが、放流水と同一箇所である。

ウ 検査項目

No.	検査項目	検査場所		
		福知山終末処理場		
		流入水 5月 年 1回	流入水 5月以外 年 11回	放流水 年 12回
1	水温	1	1	1
2	気温	-	-	1
3	pH	1	1	1
4	浮遊物質(SS)	-	-	1
5	COD	-	-	1
6	BOD	-	-	1
7	全磷(T-P)	-	-	1
8	全窒素(T-N)	-	-	1
9	大腸菌	-	-	1
10	蒸発残留物	-	-	1
11	1・4-ジオキサン	1	1	1
12	フェノール類	1	-	1
13	銅	1	1	1
14	亜鉛	1	1	1
15	溶解性マンガン	1	1	1
16	溶解性鉄	1	1	1
17	ニッケル	1	1	1
18	全クロム	1	1	1
19	ふっ素	1	-	1

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第2章 水質検査業務

20	ほう素	1	-	1
21	カドミウム	1	1	1
22	全シアン	1	-	1
23	有機リン	1	-	1
24	鉛	1	1	1
25	六価クロム	1	1	1
26	砒素	1	1	1
27	全水銀	1	1	1
28	アルキル水銀化合物	1	-	1
29	ポリ塩化ビフェニル	1	-	1
30	アンモニア性窒素	1	-	1
31	亜硝酸性窒素	1	-	1
32	硝酸性窒素	1	-	1
33	リン酸イオン	-	-	1
34	塩化物イオン	-	-	1
35	硫酸イオン	-	-	1
36	鉱物油	1	1	1
37	動植物油	1	1	1
38	セレン	1	-	1
39	臭素イオン	-	-	1
40	1,1,1-トリクロロエタン	1	-	1
41	四塩化炭素	1	-	1
42	1,2-ジクロロエタン	1	-	1
43	1,1-ジクロロエチレン	1	-	1
44	ジクロロメタン	1	-	1
45	シス-1,2-ジクロロエチレン	1	-	1
46	テトラクロロエチレン	1	-	1
47	1,1,2-トリクロロエタン	1	-	1
48	トリクロロエチレン	1	-	1
49	ベンゼン	1	-	1
50	1,3-ジクロロプロペン	1	-	1
51	シマジン	1	-	1
52	チウラム	1	-	1
53	チオベンカルブ	1	-	1

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第2章 水質検査業務

計	41 項目	16 項目	53 項目
---	-------	-------	-------

No.	検査項目	検査場所	
		福知山終末処理場	
		流入水 5月	放流水 5月
1	ダイオキシン類	1	1
計		2 項目	

				年間	合計
流入水	41 項目×1 検体×1 ヶ月	=	41 項目	公共下水道 福知山終末処理場	
	16 項目×1 検体×11 ヶ月	=	176 項目		
放流水	53 項目×1 検体×12 ヶ月	=	636 項目	26 検体	
ダイオキシン類	1 項目×2 検体×1 回	=	2 項目	855 項目	

(3) 提出書類

- ア 計画書及び報告書
- イ 計量証明書
- ウ 作業写真等

ア ～ ウ について、実施月以降の月次報告時に提出することとする。

(4) 特記事項

ア 関係法令及び下水試験方法に基づき行うこと。

イ 油分等試験に使用する採水容器については、必要な処理を施したものを使用すること。  
また、検体自体が汚染されている以外の要因によって必要でない物質が検出されないこと。

ウ 測定値又は検査結果が基準値を超過している場合は、直ちに発注者に報告をし、指示どおり検査すること。

エ 検査項目で基準値の2分の1以上超過した項目がある場合は、直ちに発注者に報告すること。

オ 測定機器による誤差を考慮し同一の機器を用いて測定すること。

カ 受注者が用意した測定器を使用する場合は、測定機器のリストと測定器の校正記録を提出すること。

キ 計量証明書は、計量法に定める計量証明事業の登録を受けていること。

3 福知山市内事業場における排出水の水質検査

(1) 業務概要

別発注で採水する福知山市内事業場における排出水について、水質検査を行う。

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第2章 水質検査業務

(2) 検査頻度、及び検査項目

検査項目		1箇所/年の採取回数 市内事業場排水	検体名 検査実施数：30箇所(予定)	年間検体数
1	気温	1	市内事業場排水 年間30箇所(予定)	65
2	水温	1		65
3	pH	1		65
4	浮遊物質(SS)	1		65
5	COD	1		65
6	BOD	1		65
7	全燐(T-P)	1		65
8	全窒素(T-N)	1		65
9	大腸菌	1		65
10	蒸発残留物	1		65

(3) 検査、報告要領

- ア 持ち込まれた検体は、速やかに水質検査を行うこと。  
ただし、速やかに検査が出来ない場合は、関係法令等の方法により措置を施すこと。
- イ 関係法令及び、水質測定方法手順書に基づき行うこと。
- ウ 各項目の検査結果が基準値の2分の1以上を超過した場合は、超過している項目を、速やかに発注者に報告すること。
- エ 測定値が基準値内でない、もしくは検査結果が基準値を超過している場合は、その項目の再検査を実施すること。
- オ 測定機器毎の誤差をなくするため、同一測定機器を用いて行うこと。
- カ 受注者の用意した測定機器を使用する場合は、測定機器のリストと測定機器の校正記録又は、それに相当するものを提出すること。
- キ 検査結果報告書は、持込日ごとにまとめ、持込日から10日以内に発注者へ提出すること。

4 検査室等施設の利用

- (1) 福知山終末処理場管理棟2階の水質検査室及び薬品庫を利用できるものとし、必要な機器は貸与する。
- (2) 本業務履行に必要な水質検査業務に係る場合のみ機器の使用を認める。
- (3) 以下の機器を貸与するものとする。貸与した機器については、必要に応じて校正及び保守点検を行い、証明書、保証書を保管すること。
  - ア 浮遊物質測定に使用するろ過装置
  - イ 容器等乾燥器
  - ウ COD等測定に使用する電気湯煎器
  - エ BOD等測定に使用する溶存酸素計

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第2章 水質検査業務

- オ 全リン、全窒素測定に使用する分光光度計装置
  - カ 大腸菌測定に使用にするクリーンベンチ
  - キ 大腸菌測定に使用するオートクレーブ
  - ク BOD等測定に使用するインキュベーター
  - ケ 電子天秤
  - コ COD測定に使用する分注器
  - サ 精製水製造装置
  - シ 超音波洗浄機
  - ス 薬剤を攪拌する攪拌機
  - セ 電気炉
  - ソ デシケーター
  - タ 冷蔵庫
  - チ 臭気測定器
  - ツ その他ビーカー及びメスシリンダー等消耗品
- ただし、破損等した場合は受注者の負担で補充すること。

第3節 有害物質等測定業務

(1) 業務概要

福知山終末処理場の汚泥に係る有害物質の測定を行う。

(2) 留意事項

- ア 検査実施機関は、計量法に定める計量証明事業の登録を受けている者であること。
- イ サンプルリングは、上記実施機関が行うこと。
- ウ サンプルリング時には、採取項目、採取年月日及び時間を記録すること。
- エ 関係法令等に基づく測定を行うこと。
- オ 測定数値の値が、法基準に定められた値の2分の1を超過した場合は、発注者に連絡するとともに報告書を提出すること。
- カ 測定値が法定基準を超過している場合は、速やかに発注者に報告すること。また、10日以内に改善計画書を作成するとともに原因究明や改善の対応を行うこと。
- キ 各測定を行う際には、事前に発注者に報告すること。

(3) 測定結果報告書の提出

- ア サンプルリングした日毎の測定結果報告書を2部提出すること。また、年間の検査結果報告書を2部、電子データを1部提出すること。
- イ 法的に届出が必要な書類は、受注者で作成し提出すること。

(4) 測定項目、測定時期、検体数等

次の表のとおり実施すること。ただし、設備の稼働状況により測定またはサンプルリン

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第2章 水質検査業務

グ時期が変更となることがある。

ア 汚泥等の有害物質等含有量測定

No.	測定項目	し 渣 沈 砂	計
		6. 9. 11. 2 月	
(ア)	蒸発残留物	4	4
(イ)	灼熱残留物	4	4
(ウ)	カドミウム	4	4
(エ)	クロム	4	4
(オ)	マンガン	4	4
(カ)	ニッケル	4	4
(キ)	砒素及びその化合物	4	4
(ク)	水銀	4	4
(ケ)	亜鉛	4	4
(コ)	銅	4	4
(サ)	鉄	4	4
(シ)	鉛及びその化合物	4	4

イ 汚泥中の有害物質等溶出試験測定

No.	測定項目	し 渣 沈 砂		計
		6. 11 月	9. 2 月	
(ア)	pH	2	2	4
(イ)	シアンイオン	2	2	4
(ウ)	カドミウム	2	2	4
(エ)	クロム	2	2	4
(オ)	マンガン	2	2	4
(カ)	ニッケル	2	2	4
(キ)	砒素及びその化合物	2	2	4
(ク)	水銀	2	2	4
(ケ)	亜鉛	2	2	4
(コ)	銅	2	2	4
(サ)	鉄	2	2	4
(シ)	鉛及びその化合物	2	2	4
(ス)	六価クロム	2	2	4
(セ)	PCB	2	2	4
(ソ)	アルキル水銀	2	2	4



第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第2章 水質検査業務

(タ)	有機リン	2	2	4
(チ)	セレン	2	2	4
(ツ)	四塩化炭素	－	2	2
(テ)	トリクロエチレン	－	2	2
(ト)	テトラクロエチレン	－	2	2
(ナ)	ジクロロメタン	－	2	2
(ニ)	1,2-ジクロロエタン	－	2	2
(ヌ)	1,1-ジクロロエチレン	－	2	2
(ネ)	シス-1,2-ジクロロエチレン	－	2	2
(ノ)	1,1,1-トリクロロエタン	－	2	2
(ハ)	1,1,2-トリクロロエタン	－	2	2
(ヒ)	1,3-ジクロロプロペン	－	2	2
(フ)	チウラム	－	2	2
(ヘ)	シマジン	－	2	2
(ホ)	チオベンゼンカルブ	－	2	2
(マ)	ベンゼン	－	2	2
(ミ)	1,4-ジオキサン	－	2	2

### 第3章 処理施設付帯業務

#### 第1節 概要

本章は、公共区域及び福知山特環区域に関連する下水道施設等における計装機器点検、建物付帯設備法令点検等及び場内環境整備ほか各業務について記載する。なお、各節における業務については、実施後の月度報告において随時提出するものとする。

#### 第2節 汚泥槽等清掃・浚渫業務

##### 1 業務概要

汚泥槽等の内部清掃、浚渫及び運搬を行う。また、汚泥槽等の清掃・浚渫量等で必要な箇所の計画を立て、発注者の承諾のもと作業にあたるものとする。

##### 2 業務場所

- (1) 福知山終末処理場
- (2) 汚水中継ポンプ場等
- (3) 雨水貯留施設（合流区域貯留施設含む）

##### 3 清掃・浚渫量（年間の量）

- (1) 福知山終末処理場、汚水中継ポンプ場等 約250 m<sup>3</sup>
- (2) 雨水貯留施設（中部CSO貯留施設）約80 m<sup>3</sup>

ただし、発注者の判断により3割を超える土量の増減を行う場合には、発注者と受注者で協議するものとする。

##### 4 汚泥等の排出先

発注者が指示する場所

##### 5 その他

- (1) 業務にあたって必要となる電気、水道については、既施設のものを無償で提供するものとする。
- (2) 作業実施にあたり、酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習の資格を有するものを現場に常駐させ、安全対策には十分留意すること。
- (3) 清掃・浚渫したものを、発注者が指示する場所まで運搬し排出すること。
- (4) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また必要箇所に交通誘導員を配置すること。
- ・交通誘導警備員人員：N=2人/日（想定）
- (5) 業務の履行により生じた産業廃棄物の処理は、別途業務として処理を行う。

#### 第3節 し渣沈砂収集運搬業務

##### 1 業務概要

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第3章 処理施設付帯業務

各汚水中継ポンプ場、終末処理場に設置しているスクリーン設備、除砂設備より搬出される、し渣沈砂の回収を行い、回収日集計表等を提出すること。

2 業務範囲

本業務は、し渣沈砂を場内ポンプ場へ回収する。

3 業務場所及び回収回数等

次の表のとおりとする。

コース	A	B
回収 業務回数	週に1回	2週間に1回
回収車両	軽トラック	軽トラック
回収対象 施設名	新庄P場	上松P場
	かしの木台P場	日吉ヶ丘P場
	庵我P場	石本P場
	土P場	興P場
	段P場	
回収先	場内 ポンプ場	

4 その他

- (1) 本業務に係わるポンプ場等設備は、その機能上休止できないので、支障とならないよう十分配慮し作業を行うこと。
- (2) 業務の履行により生じた産業廃棄物の処理は、別途業務として処理を行う。

第4節 雨水排水ポンプ用エンジン点検整備業務

1 業務概要

福知山終末処理場ほか雨水排水ポンプ用エンジンの点検整備を行う。

2 業務要領

- (1) 福知山終末処理場、和久市第1ポンプ場、段畑雨水ポンプ場の雨水排水ポンプ用エンジンの点検整備を行う。
- (2) 履行期間内において対象の設備に重大なトラブルが発生した場合は、即時にその復旧に対応するものとする。
- (3) 点検整備を行うたびに速報として報告書を速やかに作成して提出するものとする。
- (4) 履行期間中に対象機器以外の機器故障などが発生した場合は、機器の早急な復旧を行うとともに、原因調査を迅速に行い報告すること。復旧に際して発生した費用は、その内容により協議して決定する。

3 点検対象機器及び点検整備内容

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第3章 処理施設付帯業務

(1) 本点検業務範囲には、対象機器の点検、調整及び、対象機器の一般的消耗品（メーカー推奨で交換する消耗品など）の交換も含むこととするため、準備及び不足分の補充も行うこと。

(2) 点検整備計画

業務契約期間内に以下の整備点検を受けることとする。

場所	号数	機関型式	令和8年度	令和9年度	令和10年度
終末処理場	1	6KDL	F点検	C点検	C点検
	2	6KDL	C点検	F点検	C点検
	3	6HAL2-P	C点検	C点検	F点検
和久市第1ポンプ場	1	S165L-T	C点検	F点検	C点検
	2	S165L-T	F点検	C点検	D点検
	3	S165L-T	C点検	D点検	C点検
	4	S165L-T	D点検	C点検	D点検
段畑雨水ポンプ場	1	AY20L-ETE	D点検	C点検	C点検
	2	AY20L-ETE	C点検	D点検	C点検
	3	AY20L-ETE	C点検	C点検	D点検

## 第5節 自家発電機用エンジン点検業務

### 1 業務概要

自家発電機用エンジンの機能を良好な状態に保つため、専門業者による整備点検を受けることとする。

### 2 業務要領

- (1) 和久市第1ポンプ場ほかの自家発電機用エンジン点検整備を行う。
- (2) 履行期間内において対象の設備に重大なトラブルが発生した場合は、即時にその復旧に対応するものとする。
- (3) 点検整備を行うたびに速報として報告書を速やかに作成して提出するものとする。
- (4) 履行期間中に対象機器以外の機器故障などが発生した場合は、機器の早急な復旧を行うとともに、原因調査を迅速に行い報告すること。復旧に際して発生した費用は、その内容により協議して決定する。

### 3 点検対象機器及び点検整備内容

(1) 本点検業務範囲には、対象機器の点検、調整及び、対象機器の一般的消耗品（メーカー推奨で交換する消耗品など）の交換も含むこととするため、準備及び不足分の補充も行うこと。

(2) 点検整備計画

業務契約期間内に以下の整備点検を受けることとする。

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第3章 処理施設付帯業務

場所	台数	機関型式	令和8年度	令和9年度	令和10年度
和久市第1ポンプ場	1	YAP125G5YZ-2304	D点検	-	-
和久市第2ポンプ場	1	6NHL-ET8253	-	D点検	-
段畑雨水ポンプ場	1	AP280D9AJL0418	-	-	D点検
段畑污水中継ポンプ場	1	AY20L-ET4478	-	-	D点検
庵我污水中継ポンプ場	1	AP155D1-6SN9AJM1643	D点検	-	-
かしの木污水中継ポンプ場	1	AP95C9MS-0701	D点検	-	-
石本污水中継ポンプ場	1	YFG80G-699I0281	D点検	-	-
新庄污水中継ポンプ場	1	AP45C2MA-1684	-	D点検	-
興污水中継ポンプ場	1	YAP45EOL05079	-	-	D点検
土污水中継ポンプ場	1	YAP150G9YZ-2687	-	D点検	-
日吉ヶ丘污水中継ポンプ場	1	AP25C5LH-0375	-	-	D点検
上松污水中継ポンプ場	1	AP65C1MJ1194	-	D点検	-
段污水中継ポンプ場	1	AP280D8AJL0362	-	D点検	-
蛇ヶ端污水中継ポンプ場	1	YAP150G5YZ-2265	-	-	D点検

## 5 整備点検報告

整備点検を完了した時は、専門業者から提出される報告書（写真含む）の写しを提出すること。

## 第6節 段畑雨水ポンプ場監視制御装置点検業務

### 1 業務概要

本業務は、段畑雨水ポンプ場における受変電設備・無停電電源装置・遠方監視制御設備、福知山終末処理場、福知山市上下水道庁舎における監視制御装置・及び附属機器に対しての保守点検及び部品交換業務である。業務に伴い、それに生じる手直しまでの一切を行う。

### 2 業務要領

- (1) 段畑雨水ポンプ場・福知山終末処理場・福知山市上下水道庁舎の遠隔地集中監視制御システムによる機器の動作点検を行う。
- (2) 履行期間内において点検対象の設備に重大なトラブルが発生した場合は、即時にその復旧に対応するものとする。
- (3) 点検及び調整を行うたびに速報として報告書を速やかに作成して提出するものとする。
- (4) 点検業務対象機器について、分解清掃等で発生する消耗品及びメーカー推奨消耗品は、点検前までに準備しておくこと。
- (5) 本点検業務範囲には、対象機器の点検、調整及び、対象機器の一般的消耗品（メーカー推奨で通常1年間で交換する消耗品など）の交換も含むこととするため、準備及び不足分の補充も行うこと。

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第3章 処理施設付帯業務

- (6) 履行期間中に点検対象以外の機器の故障などが発生した場合は、機器の早急な復旧を行うとともに、原因調査を迅速に行い報告すること。復旧に際して発生した費用は、その内容により協議して決定する。

3 点検対象機器

(1) 段畑雨水ポンプ場

ア 閉鎖配電盤(LB-3A, LB-3B, LB-3C, LB-7)	4 面
イ 計装盤	1 面
ウ 無停電電源装置	1 式
エ ディスプレイ監視制御装置	1 面
オ コントローラ盤	1 面
カ テレメータ盤	1 面
キ ITV 操作盤	1 面
ク ITV 操作卓	1 面

(2) 福知山終末処理場 管理棟 中央監視室

ア ディスプレイ監視制御装置	5 台
イ プリンタ	3 台
ウ テレメータ盤	3 台

(3) 福知山市上下水道部庁舎 2 階

ア 監視制御 PC	1 台
-----------	-----

4 点検内容

- (1) 本点検業務範囲には、対象機器の点検、調整及び、対象機器の一般的消耗品（メーカー推奨で交換する消耗品など）の交換も含むこととするため、準備及び不足分の補充も行うこと。

(2) 点検整備計画

場所	点検対象機器	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
段畑雨水ポンプ場	閉鎖配電盤	－	普通点検 A	－
段畑雨水ポンプ場	計装盤	－	普通点検 A	－
段畑雨水ポンプ場	無停電電源装置	－	定期点検	－
段畑雨水ポンプ場	ディスプレイ監視制御装置	－	－	標準項目点検
段畑雨水ポンプ場	コントローラ盤	－	－	標準項目点検
段畑雨水ポンプ場	テレメータ盤	－	－	標準項目点検
段畑雨水ポンプ場	ITV 操作盤	－	－	簡易点検
段畑雨水ポンプ場	ITV 操作卓	－	－	簡易点検
福知山終末処理場 管理棟 中央監視室	ディスプレイ監視制御装置	標準項目点検	－	－

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第3章 処理施設付帯業務

福知山終末処理場 管理棟 中央監視室	プリンタ	標準項目点検	-	-
福知山終末処理場 管理棟 中央監視室	テレメータ盤	標準項目点検	-	-
福知山市上下水道部 庁舎2階	監視制御PC	標準項目点検	-	-

5 点検項目

(1) 普通点検A

- ・収納箱の外部・内部点検、清掃
- ・接地導体の点検手入れ
- ・主回路導体・端子締付部の点検（目視点検）
- ・ファンの点検手入れ、清掃（復電時強制 ON にて吹出し確認）
- ・フィルターの点検手入れ、清掃
- ・サーモラベルの変色有無
- ・スペースヒータの点検（停電時に抵抗の測定）
- ・バンロム除湿器の点検（冷却フィン部を手触で確認）
- ・換気箱防虫網の点検手入れ、清掃  
（点検結果により実施要否を決定する。）
- ・主回路絶縁抵抗測定
- ・収納箱の錆、破損、雨水、動物の侵入、パッキング、扉、ハンドル等構造点検手入れ、清掃
- ・導電部の過熱、変色有無
- ・制御部の表示、指示値
- ・付属品の錆、破損

(2) 定期点検

- ・点検前・点検後の状況確認
- ・表示灯の点灯確認
- ・切替器の位置確認
- ・計器の指示値確認
- ・清掃及び部品の点検
- ・盤内及び盤面清掃
- ・部品の目視点検
- ・締め付け点検
- ・機械的動作確認
- ・絶縁抵抗測定

- ・入力電圧測定
- ・切替操作試験
- ・校正試験
- ・計器校正
- ・継電器設定（切離しできるものに適用）
- ・電氣的測定及び特性試験
- ・波形観測
- ・出力電圧調整範囲測定（無負荷条件）
- ・定電圧設定
- ・充電器垂下測定
- ・無負荷電圧補償特性試験
- ・警報作動試験
- ・単電池測定
- ・蓄電池の点検
- ・盤内及び盤面状態の確認
- ・蓄電池の外観状態の確認
- ・接続部分の確認

（3）標準項目点検

- ・各装置及び各盤の清掃、点検
- ・電源電圧測定
- ・動作確認試験
- ・その他、システム維持に必要とされる事項

（4）簡易点検

- ・目視点検
- ・動作確認

5 整備点検報告

整備点検を完了した時は、専門業者から提出される報告書（写真含む）の写しを提出すること。

第7節 遠隔地集中監視制御システム保守点検業務

1 業務概要

終末処理場ほかの遠隔地集中監視制御システムの点検及び整備調整を行う。

2 業務要領

- （1）福知山終末処理場、汚水中継ポンプ場、マンホールポンプ場、雨水貯留施設、大江中部浄化センター及び農業集落排水汚水処理場における遠隔地集中監視制御システムに関する機器の動作点検を行う。



第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第3章 処理施設付帯業務

ただし、農業集落排水污水处理場における遠隔地集中監視制御システムに関する伝送装置については、第9節において点検を行うものとする。

- (2) 履行期間内において点検対象の設備に重大なトラブルが発生した場合は、即時にその復旧に対応するものとする。
- (3) 本点検業務範囲には、対象機器の点検、調整及び、対象機器の一般的消耗品（メーカー推奨で通常1年間で交換する消耗品など）の交換も含むこととするため、準備及び不足分の補充も行うこと。
- (4) 履行期間中に点検対象以外の機器の故障などが発生した場合は、機器の早急な復旧を行うとともに、原因調査を迅速に行い報告すること。復旧に際して発生した費用は、その内容により協議して決定する。

3 保守点検箇所

(1) 点検箇所

ア 福知山終末処理場	8箇所
(管理棟（監視室、サーバ室、屋上）、し尿投入槽、自家発電機棟（発電機室、カメラ）、常圧浮上棟カメラ、管廊）	
イ 和久市ポンプ場	8箇所
(第1ポンプ場（ポンプ室、監視室、カメラ4箇所）、第2ポンプ場、中部CSO貯留施設）	
ウ 汚水中継ポンプ場	12箇所
(場内、段畑、蛇ヶ端、かしの木台、段、日吉ヶ丘、新庄、上松、庵我、土、興、石本)	
エ 雨水貯留施設	30箇所
(西本町(伝送)、内記(伝送)、駅前(伝送)、仲ノ坪(伝送+カメラ)、仲ノ坪北(伝送+カメラ)、地藏ヶ端(伝送+カメラ2箇所)、小谷ヶ丘(伝送+カメラ)、西池(伝送+カメラ)、高田(伝送+カメラ)、大正東(伝送+カメラ)、梅原(伝送+カメラ)、土師新町(伝送+カメラ)、沢(伝送+カメラ)、土師宮町(伝送+カメラ)、土師宮町(カメラのみ)、東堀(カメラのみ)、法川(伝送+カメラ))	
オ マンホールポンプ場	19箇所
(野花1号、野花7号、牧1号、牧2号、池部1号、波江1号、下荒河6号、前田3号、堀越1号、土1号、岩崎1号、向野1号、口榎原2号、口榎原4号、石場1号、三俣2号、寺尾4号、石原2号、駅南6号)	
カ 福知山市上下水道部2階下水道課	1箇所
キ 大江中部浄化センター	1箇所

4 点検機器

(1) 終末処理場側

(ア) LCD中央監視装置	11台
---------------	-----

(ポンプ場全体稼働状況、和久市ポンプ場、汚水中継ポンプ場4台、雨水貯留施設、監視カメラ、

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第3章 処理施設付帯業務

マンホールポンプ場、大江中部浄化センター、農業集落排水污水处理場)

- |  |      |
|--|------|
| (イ) 表示装置(壁掛型)  | 6 台  |
| (ウ) 表示装置(天吊型)  | 7 台  |
| (エ) サーバ  | 5 台  |
| (雨水貯留システム 1 台、左記システム予備 1 台、中継ポンプ・マンホールポンプ・農業集落排水<br>污水处理場システム 1 台、左記システム 1 台、大江中部浄化センターシステム 1 台)                                       |      |
| (オ) U P S  | 4 台  |
| (雨水貯留システム 1 台、左記システム予備 1 台、中継ポンプ・マンホールポンプ、農業集落排水<br>污水处理場システム 1 台、左記システム 1 台)  |      |
| (カ) 伝送装置(親)  | 36 台 |
| (場外系マスター3 台、和久市ポンプ場 3 台、汚水中継ポンプ場 12 台、雨水貯留施設 17 台、マン<br>ホールポンプ場 1 台)   |      |
| (キ) 伝送装置(子)  | 4 台  |
| (福知山終末処理場B系動力制御盤におけるシンフォニアエンジニアリング製伝送装置対向子局 2<br>台、福知山終末処理場し尿投入槽現場操作盤におけるB系動力制御盤伝送装置対向子局、福知<br>山、終末処理場自家用発電設備現場操作盤におけるB系動力制御盤伝送装置対向子局) |      |
| (ク) 雨量情報表示装置   | 1 台  |
| (ケ) その他関連する監視制御ネットワーク機器  | 1 式  |
| (コ) 監視 I T V 架   | 1 式  |
| (サ) 終末処理場管理棟カメラ受信システム  | 1 台  |
| (シ) 監視カメラ装置  | 2 台  |
| (2) 現 場  |      |
| (ア) 和久市ポンプ場 L C D 中央監視装置   | 3 台  |
| (監視 2 台、監視カメラ 1 台)   |      |
| (イ) 大江中部浄化センター L C D 中央監視装置  | 1 台  |
| (ウ) 大江中部浄化センターサーバ  | 1 台  |
| (エ) 和久市ポンプ場伝送装置(子)   | 4 台  |
| (第 1 ポンプ場(ポンプ室、監視室)、第 2 ポンプ場、中部 CS0 貯留施設)  |      |
| (オ) 汚水中継ポンプ場伝送装置(子)  | 12 台 |
| (場内、段畑、蛇ヶ端、かしの木台、段、日吉ヶ丘、新庄、上松、庵我、土、興、石本)   |      |
| (カ) 貯留施設伝送装置(子)  | 17 台 |
| (西本町、内記、駅前、仲ノ坪、仲ノ坪北、地藏ヶ端、小谷ヶ丘、西池、高田、大正東、梅原、土<br>師新町、沢、土師宮町 2 台、東堀、法川)  |      |
| (キ) マンホールポンプ場伝送装置(子)   | 19 台 |
| (野花 1 号、野花 7 号、牧 1 号、牧 2 号、池部 1 号、波江 1 号、下荒河 6 号、前田 3 号、堀越 1   |      |

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第3章 処理施設付帯業務

号、土1号、岩崎1号、向野1号、口榎原2号、口榎原4号、石場1号、三俣2号、寺尾4号、石原2号、駅南6号)

(ク) 大江中部浄化センター伝送装置 (子) 1台

(ケ) 監視カメラ装置 21台

(福知山終末処理場(自家発電機棟、常圧浮上棟)、和久市第1ポンプ場4台、雨水貯留施設(仲ノ坪、仲ノ坪北、地蔵ヶ端2台、小谷ヶ丘、西池、高田、大正東、梅原、土師新町、沢、土師宮町2台、東堀、法川))

5 点検内容

(1) 伝送系機器

信号点数は各現場の信号点数に応じて点検するものとする。

ア各伝送装置共通

(ア) 各伝送装置の点検・清掃

- a 電源・電圧測定
- b コネクター・端子類 増締め
- c バッテリー確認
- d 各部点検・清掃

(イ) アナログ信号 入力確認

(ウ) デジタル信号 入出力確認

(エ) パルス信号 入力確認

(オ) データ伝送状態確認

(カ) 遠隔制御状態確認

(キ) 回線レベル測定

(ク) その他必要な点検

イ マンホールポンプ場伝送装置

点検時の入力信号は模擬信号によるものとする。

ウ その他

(ア) 各信号の確認

(イ) 制御信号の確認

(ウ) その他必要と思われること

(2) 監視カメラ装置点検内容

ア ルーター、ハブ等機器の点検及び設定状態確認

イ カメラの点検及び清掃

ウ 撮影障害物の除去(樹木・枝・葉・クモの巣等)

エ 映像の状態確認

オ カメラの動作確認

カ その他必要な点検

6 バッテリー、UPS交換

7 セキュリティソフト組込 22台分

(福知山終末処理場LCD中央監視装置11台、サーバ5台、雨量情報表示装置、和久市ポンプ場LCD中央監視装置3台、大江中部浄化センターLCD中央監視装置、大江中部浄化センターサーバ)

## 第8節 水処理施設・ポンプ場ほか計装設備保守点検業務

### 1 業務概要

公共地区下水道施設の計装設備を維持するため、設備の保守・点検調整を行う。点検を行う施設は別紙2-1「計装設備点検対象機器一覧表」のとおりとする。

### 2 業務内容

#### (1) 水位計点検

ア 実水位及び各出力値測定

イ 検出器引上げ、清掃及び本体受圧部、中空ケーブル外観目視点検

ウ ベロフラム、下部本体交換(別紙における対象機器のみ)

エ 差動トランスセット、中空ケーブル一次・二次抵抗値及び絶縁抵抗測定

オ 検出器ゼロ点調整及び変換器ゼロ点・スパン調整

### 3 留意事項

- (1) 本業務の履行に際して、点検対象となる機器について、事前に現場に確認を行い、対象機器の形式や設置場所などを理解したうえ業務を行うこと。
- (2) 対象機器の点検に必要な消耗品類は、事前に準備しておくこと。
- (3) 点検時に、部品などの劣化や損傷により機器等の障害または障害の発生するおそれがあるときは、速やかに報告するとともに障害原因の除去及び再発防止を講じること。なお、その除去及び再発防止に関し、別途費用が発生する場合は、その負担について発注者と協議を行い決定するものとする。
- (4) 対象機器の一般的消耗品(メーカー推奨で通常1年間で交換する消耗品など)一式の補充も含むものとする。
- (5) 雨水貯留施設の点検においては、必要に応じて交通誘導員の配置を行い実施すること。
- (6) 水位計の点検は、検出器の位置が非常に深い所にあるため、機器等の落下、転落及び酸欠には十分注意を払うこと。

## 第9節 農業集落排水污水处理場集中監視装置保守点検業務

### 1 業務概要

各農業集落排水污水处理場と福知山終末処理場間において監視を行う伝送装置の点検・整備調整を行う。

## 2 業務場所

(1) 宮大内污水处理場(子局)	1 台
(2) 田野污水处理場(子局)	1 台
(3) 上豊富污水处理場(子局)	1 台
(4) 佐賀污水处理場(子局)	1 台
(5) 福知山北部污水处理場(子局)	1 台
(6) 大江河東污水处理場(子局)	1 台
(7) 北有路污水处理場(子局)	1 台
(8) 有路污水处理場(子局)	1 台
(9) 福知山終末処理場(親局)	4 台
(上豊富、佐賀、有路及び宮大内・福知山北部・田野・大江河東・北有路)	

## 3 業務要領

### (1) 伝送系機器

信号点数は各現場の信号点数に応じて点検するものとする。

#### ア 各伝送装置の点検・清掃

- a 電源・電圧測定
- b コネクター・端子類 増締め
- c バッテリー確認
- d 各部点検・清掃

#### イ アナログ信号 入力確認

#### ウ デジタル信号 入出力確認

#### エ パルス信号 入力確認

#### オ データ伝送状態確認

#### カ 遠隔制御状態確認

#### キ 回線レベル測定

#### ク その他必要な点検

### (2) バッテリー等交換

## 第10節 樹木・庭園管理及び草木屑等廃棄物処分運搬業務

### 1 業務概要

福知山終末処理場内の美観及び周辺地域に対する目隠し並びに防臭効果を維持するため、庭園の植栽・樹木を管理する。また、下記に示す対象施設等において敷地内周辺の除草、排水路の除草及び土砂撤去を行う。除草、剪定等を行った草木屑等が一定以上に達した時は、福知山バイオマスセンターに運搬し処分を行い、撤去土砂等については、発注者の指示する場所まで運搬、構内敷均しを行うこととする。

## 2 対象施設等

- (1) 福知山終末処理場
- (2) 段畑雨水ポンプ場
- (3) 段汚水中継ポンプ場
- (4) 旧下豊西部污水处理場跡地
- (5) 旧行積長尾污水处理場跡地
- (6) 土師川水管橋
- (7) 段畑下水道用地
- (8) 岡ノ二町地内排水路
- (9) 土師下水道用地
- (10) 長田野4号雨水幹線排水路
- (11) 水内雨水排水路
- (12) その他雨水幹線排水路（発注者が指示する緊急を要する箇所）

※以降本節内において（2）～（10）を総称し「その他施設」（11）（12）を総称し「その他排水路」という。

## 3 業務要領

### （1）福知山終末処理場樹木庭園管理

ア 福知山終末処理場樹木庭園管理の作業範囲を別紙2-2「福知山終末処理場樹木庭園管理作業範囲図」に示す。

イ 高木を複数年計画で、一定以上に高くならないように抑え、枝が広がらないように剪定すること。処理場周りの高木は、道路に はみ出さないように剪定するとともに、防臭効果を維持するため、樹木間の隙間が大きくなるように管理すること。

ウ 管理棟前、正門道路側等、施設外周生垣の剪定を行うこと。

エ 修景池の芝生の刈り込み、雑草の除去、落ち葉の清掃。

オ 処理場敷地内の植栽剪定、雑草の除去、落ち葉の清掃。前面道路において、処理場敷地側側溝にある土砂を回収する。除去作業は、年2回程度を想定している。

カ 整枝、剪定、刈込み、清掃等により発生した枯枝、枯葉雑草等を収集し、処理場内の指定場所に集積する。

キ 市が保有するホイールロード及びフォークリフトは、積込作業に使用を認めるが、有資格者が運転すること。

ク 受注者は、一般廃棄物の収集、運搬の委託について法に定める基準に適合するものであること。

ケ 廃棄物計量施設で発行される計量証明（領収書）の空欄に「運搬物名」「会社名」「署名」を記入して月報でまとめて報告すること。

### （2）その他施設周辺除草

ア 各施設等の位置図、除草範囲を別紙2-3「各施設周辺除草位置図、除草範囲図」に示す。

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第3章 処理施設付帯業務

イ 各施設等において実施回数は原則年3回とする。ただし、以下の用地については年2回とする。

(ア) 土師川水管橋（5月下旬及び10月）

(イ) 段畑下水道用地（5月下旬及び8月）

(ウ) 土師下水道用地（5月及び8月）

(エ) 岡ノ二町地内排水路（5月下旬及び9月）

※側溝堆積物の運搬処分を年間0.4m<sup>3</sup>を見込んでいる。処分については（3）エ及びオに準じる。

(オ) 長田野4号雨水幹線排水路（7月及び11月）

（3）その他排水路側溝堆積物撤去

ア 水内排水路清掃については、年に1度各自治会が実施する排水路清掃に伴い発生した側溝堆積物の収集運搬処分を行う。作業時期は4月を予定しているが、詳細は発注者と調整し決定する。収集運搬箇所を別紙2-4「水内排水路収集運搬箇所」に示す。

イ その他雨水幹線排水路は、本市が管理する市内全域の雨水排水路において、地元要望等緊急的に対応が必要となった場合を想定しており、堆積した側溝堆積物、雑草等を撤去し運搬処分を行うものとする。

ウ 作業時に民地に侵入する際は、受注者が責任をもって調整を行うこと。

エ 側溝堆積物は福知山市環境パークへ搬出し処分すること。

オ 処分費は別途本市が負担することとする。

カ 側溝堆積物は年間46m<sup>3</sup>（水内排水路1m<sup>3</sup>、その他雨水幹線排水路45m<sup>3</sup>、）程度を見込んでいる。

（4）共通事項

ア 剪定屑、刈草は、福知山バイオマスセンターへ搬出し処分すること。処分量は、本業務としては年間53t程度を見込んでいる。

第11節 鯉池管理業務

1 業務概要

年間を通して、鯉池の管理を行うこと。

2 業務要領

（1）給餌

（2）防鳥対策（防鳥敷設置等）

（3）水管理（補給水の管理）

（4）池清掃（年1回程度清掃）

ア 落葉、枯葉の除去後は、処理場内の指定場所に搬入すること。

イ 藻の除去

高圧水及びブラシ等により、丁寧に除去すること。

ウ 堆積泥の浚渫

強力吸引車により浚渫を行い、発注者が指示する場所に搬出すること。

3 その他

- (1) 鯉池内の止水用の止水板は、無償貸与する。
- (2) 鯉餌、防鳥施設設置等は、受注者で用意すること。
- (3) 防鳥設備設置は、鳥獣保護法に抵触しないよう注意すること。

第12節 施設清掃管理業務

1 業務概要

一般見学者が立ち入る施設建物、敷地内及び周辺部に影響する落ち葉等の清掃及び施設建物の清掃を行い、常に清潔に保つこと。

2 対象施設

- (1) 福知山終末処理場管理棟・自家発電機棟
- (2) 和久市第1ポンプ場・和久市第2ポンプ場
- (3) 段畑雨水ポンプ場

3 業務内容

(1) 建物一般清掃

廊下・階段・ホールの掃き掃除、モップ掛け、クモの巣払いを行うこと。

ア 福知山終末処理場

(管理棟・自家発電機棟) (1回/週)

イ 和久市第1ポンプ場(監視棟・ポンプ室棟) (1回/月)

ウ 和久市第2ポンプ場

(ポンプ室・電気室・ポンプ配管室・補機室) (1回/月)

エ 段畑雨水ポンプ場(監視室・ポンプ室) (1回/月)

(2) トイレの点検・清掃、ペーパー・石鹸の補充 (1回/週)

(ペーパー・せっけん液は受注者で準備すること)

(3) トイレ床の水洗い、壁の拭き掃除 (1回/月)

(4) 施設常備の消毒液の点検・補充・管理 (1回/週)

(消毒液は別途支給する)

(5) 見学ルート上の消毒作業 (適宜実施)

(消毒液は別途支給する)

(6) 専門業者による床面清掃 (1回/3年)

終末処理場管理棟・自家発電機棟の床面洗浄、樹脂ワックス仕上げ及びカーペット洗浄を行うこと。移動可能な備品は移動し、砂塵等をていねいに拭き取った後、中性洗剤を用い、電動研磨機で



第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第3章 処理施設付帯業務

むらなくブラッシングし、床の材質に最も適した良質な樹脂ワックスをきれいなモップで艶出仕上げすること。

項 目	終末処理場 管理棟	終末処理場 自家発電機棟
タ イ ル	285.32 m <sup>2</sup>	212.00 m <sup>2</sup>
総 面 積	285.32 m <sup>2</sup>	212.00 m <sup>2</sup>

(7) エアコンフィルター等清掃 (1回/3年)

指示する箇所のエアコンフィルターのふきとり清掃を行う。

項 目	終末処理場 管理棟	終末処理場 自家発電機棟
設置箇所 (吸込口・吹出口含む)	18 箇所	12 箇所

(8) 対象範囲

(1)～(3)、(6)、(7)で示す清掃の範囲は別紙2-5「施設清掃業務清掃範囲図」のとおりとす。

第13節 管理棟玄関自動ドア点検業務

1 業務概要

建築基準法第8条（維持保全）に基づき、下記の建築設備を常時適法な状態を維持するため、点検を行う。

2 対象機器

福知山終末処理場管理棟玄関自動ドア（DS型） 1台

3 業務要領

(1) 3ヶ月に1回実施すること

(2) 通常点検

ア ドアエンジン部

イ 制御部

ウ センサー部

(3) 故障・事故発生時の点検及び応急的な処置。

4 その他

点検の結果、故障箇所または故障に生じるような箇所が発見された場合は、速やかに発注者に報告すること。

第14節 消防設備点検業務

1 業務概要

消防法第17条3の3に基づく外観、機能、総合検査を行い消防用設備等の効率的で安定した管理をするために設備等の保守及び点検調整を行う。

(1) 機器点検2回／年

(2) 総合点検1回／年

2 対象施設

- |                              |                     |
|------------------------------|---------------------|
| (1) 福知山終末処理場<br>(汚泥有効利用施設含む) | 福知山市字荒河 123         |
| (2) 和久市 第1ポンプ場               | 福知山市字和久市小字清水 310-1  |
| (3) 和久市 第2ポンプ場               | 福知山市字和久市小字清水 327-2  |
| (4) 蛇ヶ端 汚水中継ポンプ場             | 福知山市字岡ノ小字岡ノ町 32-38  |
| (5) 段畑 汚水中継ポンプ場              | 福知山市字堀小字段畑 2906     |
| (6) かしの木台 汚水中継ポンプ場           | 福知山市字かしの木台 4丁目 146  |
| (7) 段 汚水中継ポンプ場               | 福知山市字長田小字下野 319-1   |
| (8) 日吉ヶ丘 汚水中継ポンプ場            | 福知山市大字堀小字雁田 517、518 |
| (9) 新庄 汚水中継ポンプ場              | 福知山市大字新庄小字棚簗 415-1  |
| (10) 上松 汚水中継ポンプ場             | 福知山市字長田小字仲堤 1135-1  |
| (11) 庵我 汚水中継ポンプ場             | 福知山市字中小字二本木 1577-2  |
| (12) 土 汚水中継ポンプ場              | 福知山市字土小字竿折 775、776  |
| (13) 興 汚水中継ポンプ場              | 福知山市字興小字木梨 1-1      |
| (14) 石本 汚水中継ポンプ場             | 福知山市字上天津小字家ヨリ 2205  |
| (15) 段畑雨水ポンプ場                | 福知山市字堀小字段畑 2900 番地  |
| (16) 旧下豊富汚水処理場               | 福知山市字拝師 2569 番地の2   |

※詳細な場所及び設置設備は、別紙2-6「消防設備点検対象設備一覧表」のとおりとする。

3 業務要領

(1) 作業範囲及び実施回数等

ア 対象設備の法定点検を実施すること。

イ 対象設備に不時の異常・故障が発生した場合及び発注者の依頼があった場合は、受注者は技術者を派遣し対応すること。

ウ 消防法の点検基準に基づいて実施すること。

エ 対象設備の点検有資格者を派遣し、法定点検を実施するとともに「点検報告書」を作成すること。

オ 「点検結果報告書」は、3年毎に所轄消防署へ提出するため、提出準備に協力すること。

4 不具合事項対応

消防設備不具合事項において以下に示す項目以外については小修繕対応とする。

- (1) 消火器等の交換または薬剤詰め替え
- (2) 屋内消火栓設備等のホース耐圧試験
- (3) 故障・異常時の出動対応に要する経費
- (4) 大規模と判断される消防設備の修理または取替
- (5) その他発注者との協議により決定した事項

#### 第15節 重油地下タンク貯蔵所定期点検業務

##### 1 業務概要

消防法第14条の3の2に規定により、下水道施設重油地下タンク貯蔵所の定期点検（漏洩検査）を行う。

##### 2 所有施設

- (1) 福知山終末処理場 30kℓ, 10kℓ 地下タンク貯蔵所
- (2) 段汚水中継ポンプ場 3kℓ 地下タンク貯蔵所
- (3) 段畑雨水ポンプ場 10kℓ 地下タンク貯蔵所

##### 3 施設概要

###### (1) 30kL地下タンク貯蔵所（以下、3－（1）施設）

製造所区分 : 地下タンク貯蔵所  
設置許可 : 昭和50年10月6日 第368号  
危険物品名 : 第四類第三石油類（A重油）  
最大取扱量 : 30, 500L  
最大取扱倍数 : 15.25倍  
危険物使用施設 : 污泥処理施設污泥焼却設備

###### (2) 10kL地下タンク貯蔵所（以下、3－（2）施設）

製造所区分 : 地下タンク貯蔵所  
設置許可 : 昭和50年6月25日 第351号  
危険物品名 : 第四類第三石油類（A重油）  
最大取扱量 : 10, 000L  
最大取扱倍数 : 5.0倍  
危険物使用施設 : 雨天時排水ポンプ場, 終末処理場自家発電設備

###### (3) 3kL地下タンク貯蔵所（以下、3－（3）施設）

製造所区分 : 地下タンク貯蔵所  
設置許可 : 昭和61年2月28日 第882号  
危険物品名 : 第四類第三石油類（A重油）  
最大取扱量 : 3, 000L  
最大取扱倍数 : 1.5倍

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第3章 処理施設付帯業務

危険物使用施設：段汚水中継ポンプ場、自家発電設備

(4) 10kL地下タンク貯蔵所（以下、3－（4）施設）

製造所区分：地下タンク貯蔵所

設置許可：令和元年10月4日 第37号

危険物品名：第四類第三石油類（A重油）

最大取扱量：10,000L

最大取扱倍数：5.0倍

危険物使用施設：段畑雨水ポンプ場、雨水排水ポンプ駆動用ディーゼル機関及び自家発電設備

4 点検頻度

(1) 3－（1）施設：1年に1回

(2) 3－（2）施設：1年に1回

(3) 3－（3）施設：1年に1回

(4) 3－（4）施設：3年に1回

※前回点検：令和5年度

令和17年度以降は1年に1回

5 危険物施設届出者

(1) 危険物施設届出者

住所：福知山市字堀（水内）945番地

氏名：福知山市上下水道部 福知山市上下水道事業管理者職務代理者

6 留意事項

(1) 業務の履行に際して、安全に留意すること。特に、危険物施設周辺では、火気・静電気等を発生させないこと。

(2) 危険物取扱者乙種4類を有する者により点検実施を行うこととする。実施結果報告書等に記載する、各施設における危険物取扱者は、発注者が危険物取扱者届出書により選任している氏名を記載すること。

7 施行箇所

(1) 30kL地下タンク貯蔵所

地下タンク本体・通気管・注入管・戻り管・吸引管（3系統）・送油管（1系統）

(2) 10kL地下タンク貯蔵所

地下タンク本体・通気管・注入管・戻り管・送油管（2系統）

(3) 3kL地下タンク貯蔵所

地下タンク本体・通気管・注入管・戻り管・吸引管・送油管

(4) 10kL地下タンク貯蔵所

地下タンク本体・通気管・注入管・戻り管・吸引管・送油管

8 定期点検方法

## 第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務

### 第3章 処理施設付帯業務

社団法人日本下水道協会 下水道施設維持管理積算要領 終末処理場・ポンプ場施設編を参考とすること。

#### (1) 定期点検基準

危険物施設の定期点検方法は、昭和59年3月6日付の国の指針に基づいて行うものとする。

また、点検に際して、発注者又は危険物施設保安監督者の承諾を事前に得るものとする。

但し、平成16年4月1日に施行された「危険物施設の定期点検の周期・漏れの点検方法及び判定基準」に関する改正法令に準ずる方法を行うこと。

#### (2) 試験方法

危険物施設（地下タンク貯蔵所）及び地下埋設配管の試験方法の代表例を次に示すが、実施する試験は、発注者及び危険物施設保安監督者と協議の上、決定するものとする。

##### ア 地下タンク貯蔵所

(ア) 気相部：微加圧試験，加圧試験

(イ) 液相部：(財)全国危険物安全協会の性能評価した点検方法

##### イ 地下埋設配管

(ア) 微加圧試験，加圧試験

## 第16節 空調設備保守点検業務

### 1 業務概要

フロン排出抑制法による簡易点検を行い、報告書を作成すること。

### 2 対象機器

#### (1) 簡易点検

##### ア 福知山終末処理場

###### ・管理棟

RZRP280BA	2基
RSRP280C	1基
RZRP224B	1基

###### ・自家発電機棟

PUHY-RP224DMG	1基
PLFY-P71LMG9	2基
PLFY-P56LMG9	2基
RXYP140C	1基

###### ・脱水機棟

PUH-J100GA	1基
PUH-J40SGA	1基
RZRP112BY	2基
RZRP63BYT	1基

###### ・汚泥処理棟

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第3章 処理施設付帯業務

PFAV-P224DMJ3	2基
PUHV-P224DMJ3	2基
PK-RP50LA4	1基
PUZ-ZRPM50SKA14	1基
・常圧浮上棟	
RP-P140CP	1基

イ 段畑雨水ポンプ場

・監視室	
SZRG112BC	1基
・電気室	
SZRV140BC	2基

3 業務要領

- (1) 対象機器全てに対する簡易点検（3か月に1回）
- (2) 簡易点検びフロン充填、回収を行った記録表の作成、提出

4 主な点検内容

(1) 簡易点検内容

室外機：目視点検（振動、音、油漏れ、凍結、摩耗、腐食、錆び、外観損傷）

室内機：目視点検（振動、音、霜）

第17節 クレーン設備保守点検業務

1 業務概要

クレーン等安全規則第34条に基づき年次自主検査を行い、天井クレーンの使用による事故の防止・故障の予知・機械性能の維持・安全性の強化を図るとともに、2年に1回クレーン等安全規則第40条のクレーンの性能検査を受検するものとする。

2 点検箇所

- (1) 和久市第1ポンプ場
- (2) 和久市第2ポンプ場
- (3) 中部CS0貯留施設
- (4) 蛇ヶ端污水中継ポンプ場
- (5) 新庄污水中継ポンプ場
- (6) 庵我污水中継ポンプ場
- (7) 上松污水中継ポンプ場
- (8) 段畑污水中継ポンプ場
- (9) 興污水中継ポンプ場
- (10) 土污水中継ポンプ場

- (11) 石本污水中継ポンプ場
- (12) 日吉ヶ丘污水中継ポンプ場
- (13) かしの木台污水中継ポンプ場
- (14) 福知山終末処理場
- (15) 段畑雨水ポンプ場

### 3 業務内容

#### (1) 年次自主検査

検査機種は、別紙2-7「クレーン設備一覧」のとおりである。

#### (2) クレーン性能検査

検査機種は、別紙2-7「クレーン設備一覧」のとおりである。クレーン有効期限の更新に伴う性能検査機関への代理申請及び、検査機関への届出費用は受注者が実施、負担するものとする。

### 4 業務要領

- (1) 荷重テストに必要な物及びスペースは、安全に留意し重量物は施設床の強度を考慮し、建物の梁部分に保管すること。
- (2) 定期点検方法は、社団法人日本下水道協会下水道施設維持管理積算要領終末処理場・ポンプ場施設編を参考とする。
- (3) 完了後は、自主検査報告書を提出すること。

### 5 その他

- (1) 業務期間中に点検対象以外の機器に故障などが発生した場合は、機器の早急な復旧を行うとともに、原因調査を迅速に行い発注者に報告すること。
- (2) 業務期間中、修繕及び更新により年次自主検査対象機器を使用する場合は、使用前にクレーン等安全規則第34条に基づいた自主検査を行うこと。

## 第18節 脱臭設備活性炭吸着塔活性炭入替業務

### 1 業務場所

- (1) 福知山終末処理場脱水機棟
- (2) 土・興・石本污水中継ポンプ場

### 2 業務概要

- (1) 本業務は、活性炭吸着塔の活性炭を撤去し、保管してある再生活性炭を投入する。
- (2) 撤去した活性炭は工場へ搬送し再生する。
- (3) 工場の再生工程で目減りした分を補充した分量に相当する再生活性炭を次回入替用として納入すること。

### 3 業務要領

- (1) 福知山終末処理場      2回／年（8月～10月、2月～3月）
- (2) 土污水中継ポンプ場      1回／3年（8月～10月）

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第3章 処理施設付帯業務

(3) 興汚水中継ポンプ場 1回／3年(8月～10月)

(4) 石本汚水中継ポンプ場 1回／3年(8月～10月)

4 過去の実施年度等

(1) 各施設の最終実施年度、次回実施年度は以下のとおりである。

ア 福知山終末処理場 最終：令和7年度、次回：令和8年度

イ 土汚水中継ポンプ場 最終：令和6年度、次回：令和9年度

ウ 興汚水中継ポンプ場 最終：令和7年度、次回：令和10年度

エ 石本汚水中継ポンプ場 最終：令和5年度、次回：令和8年度

第19節 豪雨時緊急対応業務

1 業務概要

本業務は、集中豪雨時の浸水被害地区(厚中間屋町地内)において、豪雨時に緊急出動し住民の安全確保を図る作業及び、駅南地区の雨水排水施設において、豪雨時前後の雨水排水施設の異物除去等の作業を行う。

また、『排水ポンプ車運転緊急対応業務』を別途契約締結した上で宅地・道路等における浸水被害の防止・軽減を図るため、福知山市が保有する排水ポンプ車の保管場所で待機し、出動態勢を整え排水ポンプ車を発注者の指示のもと、浸水現場へ出動し排水作業を行う。

2 業務場所

- (1) 厚中間屋町地内
- (2) 駅南1号～6号排水ポンプ
- (3) 別途発注者により指示

3 業務内容

- (1) 冠水道路の通行者・通行車両等の誘導
- (2) 土のう及び水のう設置・撤去作業
- (3) 雨水排水施設の異物除去

4 業務要領

- (1) 対応場所付近のパトロールを行い、現地状況の報告を行う。
- (2) 現地状況に応じ、通行止め等の看板を設置するとともに、交通誘導員を3名配置する。また、土のうや水のうの設置が必要であれば、速やかに設置し、撤去に際しては発注者の指示により撤去を行う。
- (3) 雨水排水施設の点検を行い、異物除去を行う。

第20節 緊急対応車両等点検業務

1 業務概要



第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第3章 処理施設付帯業務

本業務は、排水ポンプ車等の信頼性確保、機械の性能維持を目的とし、各種装置の実操作にて作動確認、異常発生及び操作の習熟に主眼をおき実施する。

2 業務対象機械

- (1) 排水ポンプ車 No.1 京都 800 は 15-30
- (2) 排水ポンプ車 No.2 京都 800 は 15-61
- (3) 上記車両に積載された設備一式
- (4) 可搬式発電機 DCA-60LSIE

3 業務内容

- (1) 排水ポンプ車各機械の点検内容及び点検時期等は別表－1，別表－2に基づく。なお、点検項目等は点検記録表により、不具合を発見した場合は不具合記録表（点検記録表－4）へ記載し提出する。

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第3章 処理施設付帯業務

別表－1

機 械 名	項 目	管理作業内容	備 考
排水ポンプ車  機械番号：No. 1 No. 2	操作点検	<p>1. 作業内容</p> <p>①排水ポンプ車運行前点検 (日常点検)を実施する。 (点検記録表－2) (ポンプ運転は実施しない。(点検記録表－3))</p> <p>②車両は10km以上の走行を実施する。</p> <p>③排水ポンプ車運転日報の記入 (点検記録表－1)</p>	<p>1. 運転資格：中型自動車運転免許以上</p> <p>2. ポンプ仕様 形 式：水中モータ 駆動ポンプ 搭載台数：6台 口 径：φ200mm 吐 出 量：5m<sup>3</sup>/min 重 量：40kg以下</p>
	排水点検	<p>1. 作業内容</p> <p>①排水ポンプ車運行前点検 (日常点検)を実施する。 (点検記録表－2) (装備している排水ポンプの動作確認として排水運転(負荷運転)も含む。(点検記録表－3))</p> <p>②車両は10km以上の走行を実施する。</p> <p>③排水ポンプ車運転日報の記入 (点検記録表－1)</p> <p>2. 実施場所 ①発注者の指示による。</p>	
可搬式発電機	点検整備	<p>1. 作業内容</p> <p>①保守点検業務の内容は、 (別紙) 可搬式発電機点検記録簿、その他発注者が指示する事項とする。</p>	<p>1. 発電機仕様 型式：DCA-60LSIE エンジン：いすゞ BJ-4JJ1X 出力：三相4線式 60kVA, 220V, 157A</p>

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第3章 処理施設付帯業務

		<p>②汚損している箇所の清掃を行う。</p> <p>③点検の結果、当該機器に故障があることを発見した場合、直ちにその原因を調査し、結果報告を行う。</p>	<p>出力：単相3線式 34.6kVA, 110V, 157×2A</p>
--	--	--	---

別表－2

点検整備の種別	実 施 期 間 (月)												点検 回数	台数	合計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
操作点検（排水ポンプ車）				○							○		2	2	4
排水点検（排水ポンプ車）		○						○					2	2	4
可搬式発電機	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12	1	12

なお、発注者との協議により点検実施日を決めて行うものとする。

排水ポンプ車の出水期前（4・5・6月）排水点検は現地にて行うものとし、使用後は洗車・清掃を行うこと。

日常点検は週1回（4回／月）実施するものとする。

受注者は、灯火装置の点灯、制動装置の作動その他の日常的に点検すべき事項について、目視等により自動車及び発電機を点検しなければならない。

## 第4章 マンホールポンプ施設業務

### 第1節 共通事項

- 1 作業前には、「マンホールポンプ場台帳」、「福知山市下水道管路台帳管理システム」、「福知山市下水道施設台帳管理システム」、「マンホールポンプ巡回点検記録表」等を活用して、業務を履行する。
- 2 公道上及び私有地内の作業となるため、作業前後には関係者への周知や連絡を行うこととする。
- 3 作業を行う際には、周辺の状況を確認して、歩行者や車両の通行に支障を及ぼさないように安全な作業とする。
- 4 作業後は、周辺も含めて片付け、清掃を行うこととする。
- 5 業務を実施した内容の集計については、一覧表に整理して月度報告に添付することとし、各年度の実施状況の把握を行うこととする。
- 6 マンホールポンプ施設業務に関する費用は、本業務内で流用可能とする。

### 第2節 マンホールポンプ設備点検業務

#### 1 マンホールポンプ設備点検概要

マンホールポンプ設備を巡回方式で点検を行う。点検対象設備の名称は別紙2-8「マンホールポンプ設備点検業務対象箇所一覧表」のものとし、箇所数はマンホールポンプ施設310箇所、雨水排水ポンプ施設7箇所、雨水貯留施設15箇所であり、合計332箇所とする。

#### 2 点検回数

設備点検は1箇所当たり年1回を基本とし、次の3項について作業を行うものとする。ただし、故障表示が多発するなど特殊な事象がある箇所については、監督員との協議により、7項に示す特殊点検を実施できるものとする。

特殊点検の点検回数については、年間計127回を見込んでいる。

#### 3 点検作業（巡回点検記録表に基づく）※下記内容を基本とする。

##### （1）汚水ポンプ

- ア 外観の確認
- イ 運転状況（異音、振動、電流値、運転時間、減水）の確認
- ウ 自動起動、停止（水位）の確認
- エ 絶縁抵抗測定
- オ 着脱装置、逆止弁の機能確認
- カ 吊り下げチェーン（摩耗、損傷、腐食、変形）の確認

##### （2）現場操作盤

- ア 外観（汚損、損傷、腐食、変形）、過熱の確認

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第4章 マンホールポンプ施設業務

イ 回転灯、表示灯、計器指示値の確認

※電流計は正常な送水時の値に赤色指針をあわせ、後から行った者が異常か正常か判断出来るようにしておくこと。

ウ 各機器の作動テスト

エ 断線、ゆるみ、端子の腐食（スパーク痕など）、ヒューズの確認

オ マンホール槽への配線状況の確認

※電線管内のケーブルの撤去・入線が容易にできることを確認する。

カ 内部侵入物（雨水、小動物、昆虫、草等）の痕跡等確認

(3) 計器収納ボックス

ア 外観（汚損、損傷、腐食、変形）、過熱の確認

イ 断線、ゆるみ

ウ 内部侵入物（雨水、小動物、昆虫、草等）の痕跡等確認

(4) 液位検出器

ア レベルスイッチの設置位置及び作動確認

イ 投げ込み式水位計の水位検知状況及び作動確認

(5) マンホールポンプ槽内

スカム堆積状況等の確認

(6) 配管

ア 漏水、ジョイント部の確認

イ 支持金物、支持材の確認

(7) マンホール蓋

ア コネクタ部の設置状況等の確認

イ 大蓋のみ（小蓋なし）の場合はその旨記載すること

ウ ゆがみ、ガタツキ、摩耗、腐食の有無

エ 大蓋、子蓋共に固着等が無く開閉が行えることを確認すること

(8) 操作盤自動・施錠確認

(9) その他

ア 臨時点検

イ 簡易な故障修理

電気設備（表示灯、ヒューズ、リレー、タイマー等の取替）

機械設備（ポンプ、配管の詰まり除去・ポンプの据付直し）

ウ 設備の清掃

(10) 道路上の作業場所の確保及び安全処置

車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第4章 マンホールポンプ施設業務

所に交通誘導警備員を配置すること。

- ・交通誘導警備員人員：N=2人/7箇所（想定）

※1日あたり7箇所を想定し1箇所あたりに換算。

4 取替用電気部品等

- (1)表示灯及びタイマー等の消耗品は本業務に含むものとする。

なお、液位検出器、水中ポンプ、回転灯、漏電遮断器、電磁接触器、コンデンサの取替作業は小修繕として取り扱う。

5 高所取り付け型制御盤の作業

- (1)高所設置の制御盤作業を実施する際は、高所作業車を使用するなど各種法令や規則に則った安全な作業をすること。

6 報告

- (1)点検作業報告は、別紙 2-9「マンホールポンプ設備巡回点検記録表」の内容を、「福知山市下水道施設台帳管理システム」に入力するものとする。ただし、故障などがある場合は、紙媒体での提出を合わせてするものとする。

- (2)業務着手初年度の点検時には、点検箇所の全景、マンホール蓋据付状況、槽内状況等について撮影を行い、写真を添付することとする。

- (3)不具合箇所があった場合は、その箇所の写真を添付することとする。

7 特殊点検

- (1)特殊点検は、管理範囲内のマンホールポンプ場において、故障表示が多発することや、他のポンプ場に比べ運転時間が非常に長いポンプ場など特殊な事象があるポンプ場を対象に実施する点検とする。

- (2)特殊点検の作業内容の基本は記載しないが、特殊事象の解消を目的とした作業とする。実施する作業内容については、発注者と協議、調整を行うものとする。

- (3)特殊点検の報告は、6項と同様とする。ただし、点検内容に報告書様式が適さない場合や記入欄が不足する等の場合には、別途任意様式にて提出を行うこととする。

第3節 槽内清掃業務

1 業務概要

マンホールポンプ場の点検状況に応じて受注者の判断で清掃・浚渫を行う。

2 対象施設

清掃対象箇所は、別紙 2-7 の箇所内で受注者の判断で実施するが、年間21箇所を見込んでいる。

3 提出書類

マンホールポンプ槽内清掃箇所報告書及び作業写真(着手前と完了後の対比写真、作業

中、安全管理、使用機材等作業内容の判別できるもの)

なお、清掃時に得た知見について可能な限り記録し提出すること。

#### 4 作業要領

##### (1) 道路上の作業場所の確保及び安全処置

車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・ 交通誘導警備員人員：N=2人/6箇所（想定）

※ 1日あたり6箇所を想定し1箇所あたりに換算。

##### (2) 槽内の液面

ポンプ槽内の液面を下げる場合、操作盤で手動運転を行い、液面を下げる。

##### (3) 槽内の洗浄

槽内の洗浄範囲としては、側壁、底面、ポンプ外面、レベルスイッチ、ケーブル、チェーン及びガイドパイプを洗浄する。

##### (4) 槽内堆積物の除去

槽内のし渣、沈砂及び汚泥を吸泥車等により除去する。

##### (5) ポンプの送水確認

手動運転にてポンプを起動させ水位が下がるのを確認し、自動運転に切り替える。

##### (6) 逆止弁開放点検

逆止弁への異物噛み込み等による送水不良の場合には開放点検を行い、機能を復旧させる。

##### (7) 後片付け

作業終了後は、マンホール蓋を閉じ、バリケード等を片付け、復旧する。

また、マンホール周辺の状況を確認し、必要に応じて清掃も行う。

##### (8) 堆積物の処理

吸泥車等により除去した堆積物は、発注者と協議の上、指示された場所に搬入することとする。

## 第5章 管路施設業務

### 第1節 共通事項

- 1 作業前には「福知山市下水道管路台帳管理システム」等を活用し、周囲の下水道管路の管径・材質・土被り・流下方向、取付管延長、公共汚水ますの内径・材質等を確認し、本管を破損させることがないように注意すること。
- 2 水道管・ガス管等の地下埋設物について、事前に調整・確認を十分に行うこと。
- 3 作業に伴う切削等による破片・ごみ等については必ず回収し、周辺清掃に努めること。
- 4 作業完了後は、水を流して流下状況を必ず確認すること。
- 5 清掃及び洗浄等のために吸引した汚水については、下流側最寄りのマンホールまたは中継ポンプ場へ投入すること。ただし、閉塞の原因となる堆積物等ものを含む場合は、発注者と協議の上、指示された場所に搬入することとする。
- 6 公道上の作業においては、受注者により道路管理者及び福知山警察署への届出を行うこと。
- 7 業務を実施した内容の集計については、別紙 2-10「管路施設業務集計表」に整理し月例の報告書に添付することとし、各年度の実施状況の把握を行うこと。
- 8 本業務で実施した内容のうち、管路施設の維持管理上、必要な情報については、「福知山市下水道管路台帳管理システム」に登録を行うこと。登録する内容については、発注者と受注者との協議による。
- 9 点検や調査により発見された管路の破損、その他異常のうち、道路陥没や管路閉塞等の原因となる重大なものや不明水の異常流入等を確認した場合には、直ちに発注者に報告すること。
- 10 点検や調査により発見された管路施設の破損や不明水等の流入、その他異常のうち、第5編 小修繕等業務で修繕可能なものについては、発注者との協議の上、本業務内で修繕対応を行うこと。
- 11 第10節ストックマネジメント計画に基づく点検・調査業務1（管口カメラ等点検）及び第11節ストックマネジメント計画に基づく点検・調査業務2（本管テレビカメラ等調査）は、交付金対象事業のため、本業務の業務内容には含むが、その他の業務とは別契約を締結した上で履行することとし、業務開始前に委託契約を締結することとする。

### 第2節 圧送管清掃業務

#### 1 業務内容

高圧洗浄車等の機材を使用し、圧送管管路内の清掃を実施する。

#### 2 業務場所



第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第5章 管路施設業務

業務範囲内圧送管において、維持管理上支障を及ぼす恐れのある箇所を受注者により選定し、発注者に承諾を受けた箇所とする。

3 特記事項

- (1) 発注者の承諾を受けた箇所の圧送管内部（マンホールポンプ含む）の清掃等を実施する。作業延長は約100mとし、1箇所の作業で100mに達しない場合は、他の場所で達成すること。

ただし、発注者の判断により3割を超える作業延長の増減を行う場合には、発注者と受注者で協議するものとする。

- (2) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員人員：N=2人/日（想定）

- (3) 清掃業務の実施にあたり、高圧洗浄車以外の方法が有効な箇所については高圧洗浄以外の方法による清掃も可能とする。ただし高圧洗浄車で施工した場合の費用と同等となるように延長換算した延長を作業延長とすることとし、実際の清掃延長と延長換算した清掃延長を換算根拠を併せて報告すること。

4 報告

- (1) 圧送管清掃を行った後には、速やかに圧送管清掃報告を行い、月例の業務完了報告時に、圧送管清掃報告書・作業写真を提出すること。
- (2) 作業写真は、着手前と完了後の対比、作業中、安全管理、使用資機材、作業内容等が判別できるものを添付すること。

第3節 自然流下管清掃業務

1 業務概要

高圧洗浄車等の機材を使用し、自然流下管路内の清掃を実施する。

2 業務場所

業務範囲内自然流下管において、維持管理上支障を及ぼす恐れのある箇所を受注者により選定し、発注者に承諾を受けた箇所とする。

3 特記事項

- (1) 発注者の承諾を受けた箇所の自然流下管内部（マンホール含む）の清掃等を、年約1,200m実施する。

ただし、発注者の判断により3割を超える作業延長の増減を行う場合には、発注者と受注者で協議するものとする。

- (2) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また、作業が十分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇

所に交通誘導警備員を配置すること。

- ・交通誘導警備員延人員：N=24人(想定)

- (3) 清掃業務の実施にあたり、高圧洗浄車以外の方法が有効な箇所については高圧洗浄以外の方法による清掃も可能とする。ただし高圧洗浄車で施工した場合の費用と同等となるように延長換算した延長を作業延長とすることとし、実際の清掃延長と延長換算した清掃延長を換算根拠を併せて報告すること。

#### 4 報告

- (1) 自然流下管清掃を行った後には、速やかに自然流下管清掃報告を行い、月例の業務完了報告時に、自然流下管清掃報告書・作業写真を提出すること。
- (2) 作業写真は、着手前と完了後の対比、作業中、安全管理、使用資機材、作業内容等が判別できるものを添付すること。

### 第4節 管路緊急対応業務

#### 1 業務内容

下水道本管及び公共汚水ます・取付管内での障害発生の連絡を受けた、または発見した場合、直ちに現場確認を行い、障害の特定及び機能回復を図る。

#### 2 業務実施時間等

24時間体制とする。

#### 3 特記事項

- (1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。
- ・交通誘導警備員：N=1人/回（高圧洗浄）※2人×0.5日(想定)
  - ・交通誘導警備員：N=1人/回（汚泥吸引）※2人×0.5日(想定)
- 対応想定件数はそれぞれ高圧洗浄15回、汚泥吸引6回とし、そのうち、簡易作業を伴う件数は日中8回、時間外深夜5回である。
- (2) 復旧作業において市民への影響が大きいと判断される場合は、監視室に連絡し、発注者の承諾を得た後、作業を実施すること。
- (3) 管路施設等から汚水が溢れた場合には、現場周辺の洗浄及び消毒作業を実施すること。
- (4) 業務に際し不明な点等が発生した場合には、発注者と協議すること。

#### 4 報告

- (1) 管路緊急対応を行った後には、速やかに緊急対応報告を行い、月例の業務完了報告時に改めて、緊急対応報告書・作業写真を提出すること
- (2) 作業写真は、着手前と完了後の対比、作業中、安全管理、使用資機材、作業内容等

が判別できるよう整理すること。

#### 第5節 不明水調査業務（マンホール内部調査）

##### 1 業務内容

下水道管路に流入する不明水を発見するため、降雨時または降雨後に管路内部・マンホール内部を目視により確認する。

##### 2 業務場所

業務範囲内において、維持管理上支障を及ぼす恐れのある箇所を受注者により選定し、発注者に承諾を受けた箇所とする。その他、発注者が異常の恐れがあると判断し、指示した箇所を含むものとする。

##### 3 特記事項

（1）不明水調査は、1回4時間（0.5日）、年5回実施するものとする。

ただし、発注者の判断により調査日数を追加する場合は、発注者と受注者で協議するものとする。

（2）作業は、指定された地区のマンホール蓋を開け、マンホール内部の状況を目視し、下記（3）から（6）の内容等を確認する。

また確認した内容が分かるように写真撮影を行い整理すること。

（3）躯体と管路のジョイント部等からの不明水の流入を確認する。

（4）管路・インバート部を点検し、流量・流下状況等の異常の有無を確認する。

（5）マンホール蓋開閉時にマンホール蓋の錆等の劣化状況を点検・確認し、全景、表面、裏面の写真を撮影すること。

（6）その他不明水の原因となる兆候、破損等がないかを確認する。

（7）調査にあたり事前にマンホール内の洗浄が必要となった場合は、適宜実施すること。

##### 4 報告

（1）不明水調査業務を行った後には、月例の業務完了報告時に、調査報告書・業務写真を提出すること。

（2）報告書には、調査箇所を「福知山市下水道管路台帳管理システム」の図面に記入したものを添付すること。

#### 第6節 本管テレビカメラ調査業務

##### 1 業務内容

下水道管路に流入する不明水や管路の破損等を発見するため、本管用テレビカメラにより、下水道管路内を確認する。

##### 2 業務場所

業務範囲内において、維持管理上支障を及ぼす恐れのある箇所を受注者により選定し、

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第5章 管路施設業務

発注者に承諾を受けた箇所とする。その他、発注者が異常の恐れがあると判断し、指示した箇所を含むものとする。

3 特記事項

(1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=2人/回(想定)

・調査は、1回2時間(0.25日)、年5回を見込んでいる。

ただし、発注者の判断により調査箇所を追加する場合は、発注者と受注者で協議するものとする。

(2) 調査は、「下水道維持管理指針 実務編(公益社団法人 日本下水道協会)」の内容を準用し実施することとするが、調査記録等は異常の有無が判断できる程度に簡素化できるものとする。

(3) 不明水の発見を目的にした調査については、降雨時または降雨後の流入の増加が見込まれる時期に実施すること。

(4) 調査にあたり事前に管内の洗浄が必要となった場合は、適宜実施すること。

4 報告

(1) 業務を行った後には、月例の業務完了報告時に、調査報告書・業務写真を提出すること。

(2) 報告書には、調査箇所を「福知山市下水道管路台帳管理システム」の図面に記入したものを添付すること。

第7節 取付け管テレビカメラ調査業務

1 業務内容

取付け管テレビカメラを公共ますから取付け管に挿入し、本管接合部に向けて移動させ、取付管の異常の有無を、地上の調査員が目視により調査する。公共ますは地上から目視により点検する。

2 業務場所

維持管理上支障を及ぼす恐れのある箇所を受注者により選定し、発注者に承諾を受けた箇所とする。その他、発注者が異常の恐れがあると判断し、指示した箇所を含むものとする。

3 特記事項

(1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第5章 管路施設業務

・交通誘導警備員：N=0.5人/回※2人×2時間(0.25日)(想定)

調査想定件数は5回である。

(2) 洗浄のために吸引した汚水については、下流側最寄りのマンホールまたは中継ポンプ場へ投入すること。ただし、閉塞の原因となるものを含む場合は、発注者と協議の上、指示された場所に搬入することとする。

(3) 業務に際し不明な点等が発生した場合には、発注者と協議すること。

(4) 調査にあたり事前に管内の洗浄が必要となった場合は、適宜実施すること。

4 報告

(1) 対応を行った後には、月例の業務完了報告時に、調査報告書・業務写真を提出すること。

(2) 報告書には、調査箇所を「福知山市下水道管路台帳管理システム」の図面に記入したものを添付すること。

第8節 水管橋点検業務

1 業務内容

(1) 河川や軌道上を横断する水管橋の目視による点検と簡易な維持管理作業を行う。異常を確認した場合には、直ちに発注者に報告すること。

(2) 箇所数は合計5箇所で、契約期間内ですべての水管橋を1回以上点検することとする。

(3) 点検は1回あたり0.25日とし、1年間当り2回実施するものとするが、土師川水管橋は1年間当り4回点検を実施する。また、発注者の判断により点検箇所数を追加する場合は、発注者と受注者で協議するものとする。

2 業務場所

業務範囲内において、維持管理上支障を及ぼす恐れのある箇所を受注者により選定し、発注者に承諾を受けた箇所とする。

点検範囲は別紙2-11「水管橋点検位置図」のとおりとする。

3 特記事項

(1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、転落防止等の安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=0.5人/回(想定)

※1日あたり4回を想定し1回あたりに換算。

※2人×1日÷4回(想定)

(2) 点検項目は、下記の内容等を確認する。

ア.上部工…漏水、変形、鋼材の締付、腐食及び外面塗装の異常の有無を確認

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第5章 管路施設業務

認する。

イ. 下部工…コンクリートのひび割れ、鉄筋の露出、傾き及び沈下の有無を確認する。

ウ. 周辺…フェンス等の立入禁止措置や条件護岸の異常や不法投棄の有無を確認する。

エ. その他…沓座面への土砂の堆積及び樹木等の繁茂状況を確認する。

- (3) 点検時に異常があった際に簡易な維持管理作業により異常を除去できる場合は除去作業を実施する。

4 報告

- (1) 月例の業務完了報告に、点検報告書及び業務写真を提出すること。

- (2) 報告書には、点検箇所を「福知山市下水道管路台帳管理システム」の図面に記入したものを添付すること。

第9節 仕切弁調査業務

1 業務内容

- (1) 中継ポンプ場やマンホールポンプ場からの下水道管（圧送管）の仕切弁の位置調査及び動作確認を行う。動作確認を行う際にはポンプの送水の停止等、必要な措置を行う。調査時に異常を確認した場合には、直ちに発注者に報告すること。

- (2) 調査は1回あたり0.25日とし、1年間当り4回実施するものとする。また、発注者の判断により調査箇所数を追加する場合は、発注者と受注者で協議するものとする。

2 業務場所

業務範囲内において、維持管理上支障を及ぼす恐れのある箇所を受注者により選定し、発注者に承諾を受けた箇所とする。

3 特記事項

- (1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が充分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=0.5人/回（想定）

※1日あたり4回を想定し1回あたりに換算。

※2人×1日÷4回（想定）

- (2) 本業務は圧送管での漏水修繕等、緊急時の対応を検討することを目的として仕切弁自体の有無や開閉の可否を調査するものである。よって、弁の固着等による全閉不可を強引に閉める必要はなく、開閉不可であることや回転可能回数を報告する。

- (3) 開閉の可否の確認が完了した際には、ポンプの送水や仕切弁の開度を調査前の状態へ戻したことを確認する。ただし、調査前の状態が異常であった場合は正常な状態へ回復することを基本とする。

- (4) 調査時に異常があった際、簡易な維持管理作業により異常を除去できる場合は除去作業を実施する。

#### 4 報告

- (1) 月例の業務完了報告に調査報告書及び業務写真を提出すること。
- (2) 報告書には、調査箇所を「福知山市下水道管路台帳管理システム」の図面に記入したものを添付すること。

### 第10節 スtockマネジメント計画に基づく点検・調査業務1

#### (管口カメラ等点検)

##### 1 業務内容

- (1) 福知山市下水道Stockマネジメント実施方針及びStockマネジメント計画で定められた点検について、「下水道維持管理指針 実務編（公益社団法人 日本下水道協会）」の内容を準用し、点検を実施すること。
- (2) 点検は、マンホール蓋を開け、地上からの目視による流下状況の確認、鏡とライトの使用又はマンホール内に管口カメラを挿入、もしくは必要に応じてマンホールに入孔した作業員による目視で管内状況や堆積物の有無の確認を行う。いずれの場合も管きよの点検は、視認できる範囲の状況把握とする。

##### 2 対象箇所及び数量

- (1) 点検対象箇所は、「令和6年度 公共下水道事業 Stockマネジメント実施方針および計画（第3期）策定業務」で定められた年次計画に基づくものとし、点検対象数量は、年約530箇所とする。対象箇所には特定環境保全公共下水道福知山区域も一部含まれている。
- (2) その他、日常の維持管理業務内で異常等を確認し、維持管理上支障を及ぼす恐れがある箇所がある場合は、受注者により選定し、発注者に承諾を受けた上で実施すること。

##### 3 特記事項

- (1) 業務の詳細内容については、業務開始前に委託契約を締結する業務の仕様書内容に基づくこととする。
- (2) 業務内容が交付金対象事業のため、交付金の内示状況により対象箇所及び数量が増減する場合がある。

### 第11節 Stockマネジメント計画に基づく点検・調査業務2

#### (本管テレビカメラ等調査)

##### 1 業務内容

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第5章 管路施設業務

- (1) 福知山市下水道ストックマネジメント実施方針及びストックマネジメント計画で定められた調査について、「下水道維持管理指針 実務編（公益社団法人 日本下水道協会）」の及び内容を準用し、視覚調査を実施すること。
- (2) 調査は、本管の破損、クラック、継手ズレ、腐食等の劣化度や流下能力に影響を与える上下方向のたるみ、取付管の突出し、油脂の付着、樹木根侵入、モルタル付着、地下水の浸入並びに土砂の堆積状態等の性状を潜行目視及びテレビカメラにより視認し、本管の状態を把握する。
- (3) 調査を正確に実施するための事前の管清掃についても本業務で実施する。

2 対象箇所及び数量

- (1) 調査対象箇所は、「令和6年度 公共下水道事業 スtockマネジメント実施方針および計画（第3期）策定業務」で定められた年次計画に基づくものとし、調査対象数量は、年約 4,300mとする。対象箇所には特定環境保全公共下水道福知山区域も一部含んでいる。
- (2) その他、日常の維持管理業務内や管口カメラ等点検により、異常等を確認し、維持管理上支障を及ぼす恐れがある箇所がある場合は、受注者により選定し、発注者に承諾を受けた上で実施すること。

3 特記事項

- (1) 業務の詳細内容については、業務開始前に委託契約を締結する業務の仕様書内容に基づくこととする。
- (2) 業務内容が交付金対象事業のため、交付金の内示状況により対象箇所及び数量が増減する場合がある。



## 第6章 小修繕等業務

### 第1節 共通事項

#### 1 業務概要

- (1) 本業務委託にかかる対象施設における設備等の機能を正常に発揮、維持できるよう適切に修繕及び物品調達等を行うものとする。詳細な概要は次節以降のとおりとする。
- (2) 受注者が負担を負う修繕等は、次節以降に示す1件あたりの費用未満のものを原則とする。ただし受注者が行う修繕等が、1件あたりの費用を超える場合や次節以降に示す各年度の予定件数や上限額を超える場合であっても、年度末までの委託業務費用内で、可能と判断される場合は、発注者との協議のうえ、実施してよいものとする。なお、年度末までの委託業務費用内を超過する恐れがある等で本業務内での実施が困難な場合は、発注者との協議により別途契約とする場合がある。

#### 2 報告

- (1) 修繕等を実施した場合は、作業内容が確認できる実施報告書（写真帳含む）及び修繕等に要した費用の分かる内訳書について、月例の報告書に添付し報告することとする。ただし発注者が緊急を要するものとして提出を求めたものについては、月例の報告書とは別に報告することとする。
- (2) 修繕に要した費用の集計については、別紙 2-12「小修繕等業務集計表」に整理し月例の報告書に添付することとし、各年度の修繕費用の把握を行うこと。この集計様式については、全小修繕項目を集約した報告様式でも可能とする。
- (3) 修繕内容は、「福知山市下水道施設台帳管理システム」、「福知山市下水道管路台帳管理システム」に入力することとする。

### 第2節 污水处理施設修繕

#### 1 業務概要

対象施設における設備等の機能を正常に発揮、維持できるよう適切に修繕を行うものとする。

#### 2 対象施設

- (1) 福知山終末処理場
- (2) 公共区域に関連する中継ポンプ場
- (3) 公共区域に関連する雨水ポンプ場及び雨水貯留施設

#### 3 各年度の上限額

污水处理施設修繕における各年度の累計上限額は、1, 213万円（消費税及び地方消費税を含む）とする。

ただし、運行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

(1) 実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書等（押印省略）

(2) 実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

- (1) 受注者は、対象施設の施設故障状況一覧表に優先順位を受注者と協議の上、決定し修繕を実施することとする。点検等により、施設状況に変動が見られた場合には、適宜施設故障状況一覧表について変更を行い発注者と協議を行うこととする。
- (2) 修繕に使用する部品等は、仕様変更による性能低下とならないよう実施することとする。
- (3) 受注者は、修繕の実施にあたって、発注者の承諾を得ることとする。
- (4) 受注者は、設備修繕の結果について報告書に記録を行わなければならない。
- (5) (4) の記録に対して、発注者から提出を求めた場合は速やかに提出することとする。
- (6) 当初において小修繕で実施中に想定外の異常が発見され、大幅に費用が増加すると判断された際には、発注者と協議するものとする。
- (7) 年度内において、修繕件数が想定を大幅に超え、小修繕費用が不足すると予想される場合は、発注者と協議するものとする。
- (8) かし担保期間は、修繕の完了した日から1年間とする。

第3節 マンホールポンプ施設修繕

1 業務概要

住居などから流入する汚水を次の施設に送水する機能に異常等が発生した場合には、速やかに対象施設の機能回復を行い、対象施設の機能を正常に発揮、維持できるよう適切に修繕を行うものとする。

2 対象施設

当該処理区域のマンホールポンプ施設とする。

3 各年度の上限額

マンホールポンプ施設修繕における各年度の累計上限額は720万円（消費税及び地方消費税を含む）とする。

ただし、履行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

(1) 実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書等（押印省略）

(2) 実施後（月度報告時）

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第6章 小修繕等業務

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

- (1) 受注者は、対象施設の施設故障状況一覧表に優先順位を受注者と協議の上、決定し修繕を実施することとする。点検等により、施設状況に変動が見られた場合には、適宜施設故障状況一覧表について変更を行い発注者と協議を行うこととする。
- (2) 修繕に使用する部品等は、仕様変更による性能低下とならないよう実施すること。
- (3) 受注者は、修繕の実施にあたって発注者の承諾を得ること。
- (4) 受注者は、設備修繕の結果について報告書に記録を行わなければならない。  
また、その記録に対して、発注者から提出を求めた場合は速やかに提出すること。
- (5) 当初において小修繕で実施中に想定外の異常が発見され、大幅に費用がかさむと判断された際には、発注者と協議するものとする。
- (6) 年度内において、修繕件数が想定を大幅に超え、小修繕費用が不足する場合は発注者と協議するものとする。
- (7) かし担保期間は、修繕の完了した日から1年間とする。

第4節 公共汚水ます修繕

1 業務概要

下水道管路に接続している公共汚水ますに、破損や不具合が発生している場合は、下水道管路の接続機能が正常に維持できるよう適切に修繕を行う。また、修繕の施工に際しては、発注者の承諾を得てから実施すること。

2 対象箇所

当該処理区域の公共汚水ますとする。

3 各年度の予定件数及び限度額

公共汚水ます修繕の費用における各年度の累計上限額は、673万円（消費税及び地方消費税を含む）とする。修繕想定件数は、35件である。

ただし、履行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

(1) 実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書等（押印省略）

(2) 実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第6章 小修繕等業務

- (1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が十分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=2人/件（想定）

- (2) 使用する部材は、福知山市下水道用標準構造図の仕様を満足したもの、または、下水道協会及び下水道推進機構の認定品を基本とする。
- (3) 作業の前日までに、自治会や作業場所周辺住民の理解を得ること。
- (4) 当初の修繕予定件数と実績の差が大きい場合、その他修繕内容で疑義が生じた場合には、発注者と受注者で協議するものとする。
- (5) 修繕内容の確認が困難な場合には、掘削を求めることがある。

第5節 止水修繕

1 業務概要

- (1) 下水道管路及びマンホール本体における漏水や浸入水を伴う不良箇所の修繕を行う。  
工法においては、状況に応じた適切な方法を選択し止水を行う。
- (2) この修繕により、下水道管路の機能を正常に維持できるよう適切に修繕を行うこととする。また、修繕の施工に際しては、発注者の承諾を得てから実施することとする。

2 対象箇所

当該処理区域の管路施設とする。

3 各年度の予定件数等

止水修繕の費用における各年度の累計上限額は、48万円（消費税及び地方消費税含む）とする。修繕想定件数は、5件である。

ただし、施工条件等によりこの費用を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

4 提出書類

(1) 実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書等（押印省略）

(2) 実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

5 特記事項

- (1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が十分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=2人/5件（想定）

※1日あたり5件を想定し1件あたりに換算。

- (2) 使用する部材は、福知山市下水道用標準構造図の仕様を満足したもの、または、下水道協会及び下水道推進機構の認定品を基本とする。
- (3) 作業の前日までに、自治会や作業場所周辺住民の理解を得ること。
- (4) 当初の修繕予定件数と実績の差が大きい場合、その他修繕内容で疑義が生じた場合には、発注者と受注者で協議するものとする。
- (5) 修繕内容の確認が困難な場合には、掘削を求めることがある。

## 第6節 取付管修繕

### 1 業務概要

下水道管路に接続している取付管に、破損や不具合が発生している場合は、下水道管路への接続機能が正常に維持できるよう適切に修繕を行うこととする。

また、修繕の施工に際しては、発注者の承諾を得てから実施することとする。

### 2 対象箇所

当該処理区域の取付管とする。

### 3 各年度の予定件数及び限度額

取付管修繕の費用における各年度の累計上限額は、171万円（消費税及び地方消費税を含む）とする。修繕予定件数は5件である。

ただし、履行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

### 4 提出書類

#### (1) 実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書等（押印省略）

#### (2) 実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

### 5 特記事項

- (1) 車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が十分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を配置すること。

・交通誘導警備員：N=2人/件（想定）

- (2) 使用する部材は、福知山市下水道用標準構造図の仕様を満足したもの、または、下水道協会及び下水道推進機構の認定品を基本とする。
- (3) 作業の前日までに、自治会や作業場所周辺住民の理解を得ること。
- (4) 当初の修繕予定件数と実績の差が大きい場合、その他修繕内容で疑義が生じた場合には、発注者と受注者で協議するものとする。
- (5) 修繕内容の確認が困難な場合には、掘削を求めることがある。

## 第7節 本管簡易修繕

### 1 業務概要

下水道本管に、破損や不具合が発生している場合は、本管路の機能が正常に維持できるように適切に修繕を行う。

また、修繕の施工に際しては、発注者の承諾を得てから実施すること。

### 2 対象箇所

当該処理区域の下水道本管とする。

### 3 各年度の予定件数及び限度額

本管簡易修繕の費用における各年度の累計上限額は、175万円（消費税及び地方消費税を含む）とする。簡易修繕予定件数は5件である。

ただし、履行状況により限度額を超える恐れがある場合は、下記の特記事項によるものとする。

### 4 提出書類

#### （1）実施前

・修繕実施打合せ簿 ・修繕見積書等（押印省略）

#### （2）実施後（月度報告時）

・修繕施工写真 ・修繕費用集計表（年度累計様式） ・報告書等

### 5 特記事項

（1）車両及び歩行者の通行の妨げにならないよう、また作業が十分に行えるようバリケード等により作業場所を確保し、安全管理を行い事故防止に努めること。また、必要箇所に交通誘導警備員を廃止すること。

・交通誘導警備員：N=2人/件（想定）

（2）使用する部材は、福知山市下水道用標準構造図の仕様を満足したもの、または、下水道協会及び下水道推進機構の認定品を基本とする。

（3）作業の前日までに、自治会や作業場所周辺住民の理解を得ること。

（4）当初の修繕予定件数と実績の差が大きい場合、その他修繕内容で疑義が生じた場合には、発注者と受注者で協議するものとする。

（5）修繕内容の確認が困難な場合には、掘削を求めることがある。

## 第8節 物品調達

### 1 業務概要

本業務は、対象となる施設において、放流水質の基準値内の放流水を維持ができ、機器類の安定した稼働を継続できるよう、適正な物品類の調達を行うものである。

また、処理施設維持管理業務の履行に際して、適正な在庫管理を行うこととする。

第2編 公共地区下水道施設運転管理等業務  
第6章 小修繕等業務

2 調達する物品区分

調達する物品について、区分概要を次に記載し、各調達物品の内容を下記の表に示す。

(1) 薬品類及び機械・電気部品類

薬品類は、汚水処理施設からの放流水質の確保や保全、発生する汚泥の安定処理に必要となる薬品類とする。

機械・電気部品類は、異常または故障が発生した場合に、所有しているその部品類を使用して復旧できる部品類とする。

(2) 維持管理消耗品

維持管理消耗品は、作業に必要となる燃料費、機器類の保守管理に係る油脂類、現場整備に係る清掃用具や現場作業者の衛生用品等のような作業現場業務を履行するために必要とする消耗品とする。

(3) その他消耗品

その他消耗品は、業務履行報告に関する事務用品費用等の一般的な消耗品とする。

表 調達物品の区分と例

薬品類	・放流水塩素消毒用薬品 ・処理水等pH調整用薬品
機械・電気部品類	・簡易な補修に関する機械及び電気部品
水質検査用部品類	・水質検査使用計器の校正費、補修部品
維持管理消耗品	・燃料費（作業用（草刈り機含む）、車両用） ・潤滑油類費（交換及び補充用のオイル・グリース等） ・塗装費（軽微な部分補修用塗料） ・整備費用（掃除道具、ウエス、洗浄油類） ・補修用材料（ボルト、ナット、パッキン、ヒューズ、ランプ等一般汎用品の範囲内とする。） ・水質測定用薬剤 ・衛生用品（石鹼、消毒液、救急用薬品） ・上記に該当しないものであっても本業務を遂行するために、一般的に当然必要であると認められる消耗品
その他消耗品	・報告記録用紙費（日報、月報、年報、FAX用紙等） ・その他日用品、事務用品等 ・上記に該当しないものであっても本業務を遂行するために、一般的に当然必要であると認められる物品

3 物品調達に関する費用区分

(1) 薬品類

薬品類の各年度の購入累計上限額は、1,315万円（消費税及び地方消費税含む）とする。

薬品類は、汚水流入量や気温等の変動により、年間使用量が変化するため、変動費として取り扱うこととする。

想定した使用量に対して増減が激しい場合は、発注者と調達費用に関する協議を行い、決定するものとする。

(2) 機械・電気部品類及び水質検査用部品類

機械・電気部品類及び水質検査用部品類の各年度の購入累計上限額は、それぞれ261万円及び98万円（消費税及び地方消費税含む）とする。

機械・電気部品類及び水質検査用部品類は、年間で実施する補修箇所数が想定できないため、変動費として取り扱うこととする。

調達する部品類の単価は、5万円未満（消費税及び地方消費税含む）とするが、部品の性能上、単価が5万円以上（消費税及び地方消費税を含む）の部品類は、発注者と協議の上、調達方法を決定する。

(3) 維持管理消耗品及びその他消耗品

維持管理消耗品及びその他消耗品の費用は、固定費として取り扱うこととする。

4 調達物品の管理

(1) 受注者は、処理場等の管理運転に要する・薬剤等及び潤滑油脂類・消耗品等の調達及び管理を行わなければならない。

(2) 物品管理者及び薬品類の管理者を選任し、保管、取扱等には十分注意して適正な管理を行うこととする。

(3) 物品の調達管理は、適正な品質及び規格の物品等を調達し、施設等の運転、耐用年数等に影響を与えないようにすることとする。

(4) 常に在庫数量等を把握して適宜適切に調達し、在庫不足、品質低下等による施設運転等への支障を与えないようにすることとする。

(5) 薬品類については、品質証明書等の書類を保管し、発注者から提出を求められた場合は、写し等を提出することとする。

(6) 調達する薬品類の化学物質等安全データシート（MSDS）は、常に最新のものを常備し、保管することとする。

5 記録及び報告

受注者は、納入品及び数量（使用量含む）の記録を行い、定期的にその記録の報告を行うこととする。

また、その記録に対して、発注者の求めがあった場合は速やかに提出することとする。

6 その他

物品調達の実施にあたっては、地元経済の発展のため、地元企業から優先して購入することをお願いする。

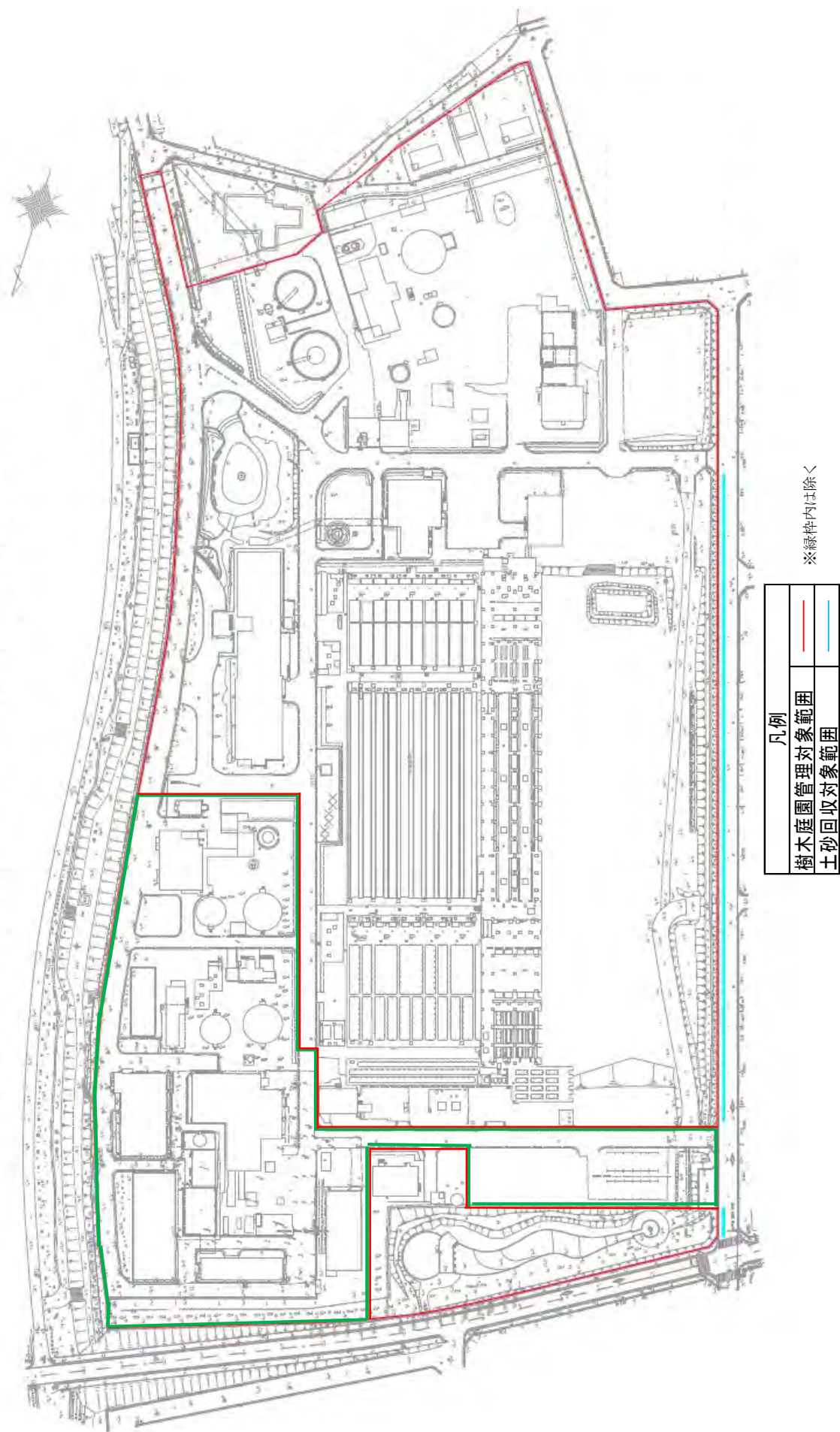
その他の記載なき事項については、発注者と受注者の協議の上、決定するものとする。

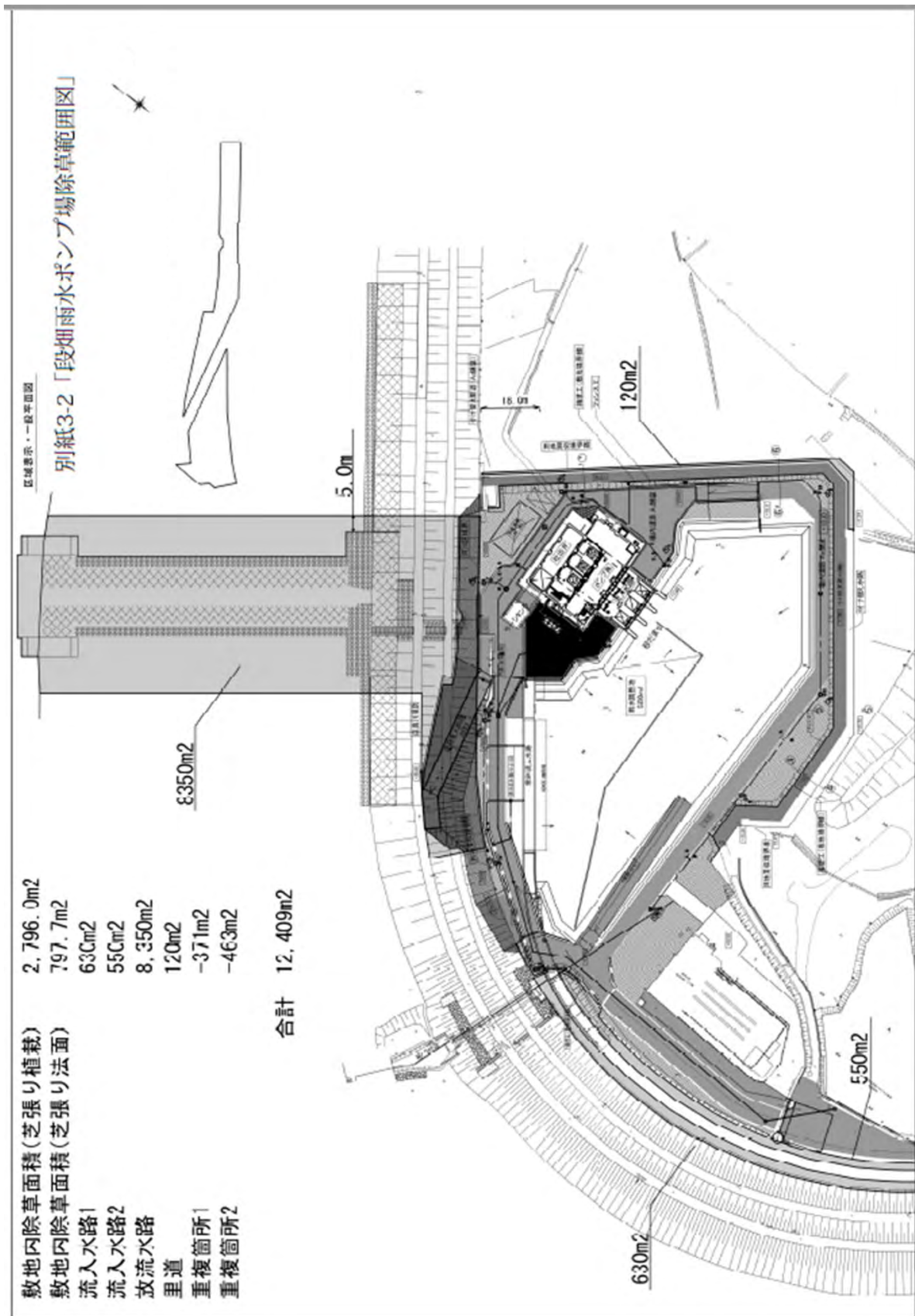


別紙 2-1「計装設備点検対象機器一覧表」

施 設 名	計 器 名	メーカ	検 出 器	中 継 箱	変 換 器	製造番号	備考	年	月	8年度	9年度	10年度
和久市第 1	雨水井水位計	FEアドバンテック	SL-180C		PSB-182A	149250	0～5m	2014	9	○	◎	○
和久市第 1	汚水井水位計	FEアドバンテック	SL-180C		PSB-182A	149251	0～5m	2014	9	○	○	○
和久市第 2	汚水井水位計	FEアドバンテック	SL-130C		PSB-122DF	192316	0～5m	1992	12	○	○	○
和久市第 2	貯留槽水位計	FEアドバンテック	SL-130B		PSB-132A	17746	0～3m	1996	2	○	○	○
和久市第 3	流入渠水位計	FEアドバンテック	SL-180C	JB-483M	PSB-180A	0113297	0～4m	2011	3	◎	○	○
和久市第 3	ポンプ井水位計	FEアドバンテック	SL-180C	JB-483M	PSB-180A	0113298	0～1.3m	2011	3	○	○	◎
かしの木台	汚水井水位計	FEアドバンテック	SL-122B	----	PSB-120AS	9302	0～3m	1990	4	○	○	○
日吉ヶ丘	汚水井水位計	FEアドバンテック	SL-180C	----	PSB-182D	156204	0～3m	1994	10	○	◎	○
新 庄	汚水井水位計	FEアドバンテック	SL-122C	----	PSB-120DF	10554	0～3m	1991	7	◎	○	○
上 松	汚水井水位計	FEアドバンテック	SL-180C	JB-483M	PSB-180A	0082599	0～3m	2008	2	○	◎	○
庵 我	汚水井水位計	FEアドバンテック	SL-180C	JB-483M	PSB-180D	0082600	0～3m	2008	2	○	◎	○
興	汚水井水位計	FEアドバンテック	SL-130C	JB-333M	PSB-130A	15232	0～5m	1994	10	○	○	○
石 本	汚水井水位計	FEアドバンテック	SL-130C	JB-433M	PSB-130A	11080720	0～5m	1999	8	○	○	○
場 内	汚水井水位計	FEアドバンテック	SL-130C		PSB-132D	003346	0～5m	2000	3	○	◎	○
分配槽	汚水井水位計	FEアドバンテック	SL-130C	JB-433	PSB-130A	15606	0～5m	1995	1	○	◎	○
終末処理場 A 系	塩素混和池水井	FEアドバンテック	SL-130C	JB-433	HQC-122AF	13302	40～76.52cm	2001	3	○	◎	○
終末処理場 B 系	塩素混和池水井	FEアドバンテック	SL-130C	JB-433	HQC-122AF	13303	40～78.60cm	2001	3	○	◎	○
西本町雨水貯留	槽内水位計	FEアドバンテック	ML-122		MC-122	024015	0～5m	2002	4	◎	○	○
西本町雨水貯留	水路水位計	FEアドバンテック	ML-122		MC-122	024014	0～3m	2002	4	◎	○	○
駅前雨水貯留	槽内水位計	FEアドバンテック	ML-100-02		MC-1130	0073091	0～5m	2007	3	◎	○	○
駅前雨水貯留	水路水位計	FEアドバンテック	ML-100-02		MC-1130	0073090	0～3m	2007	3	◎	○	○
堀高田雨水貯留	槽内水位計	FEアドバンテック	ML-122		MC-123	0171600	0～5m	2015	2	○	○	◎
堀高田雨水貯留	水路水位計	FEアドバンテック	ML-122		MC-123	0152427	0～5m	2015	2	○	○	◎
土師新町東雨水貯留	槽内水位計	FEアドバンテック	ML-122		MC-123	0152643	0～5m	2015	2	○	○	◎
土師新町東雨水貯留	水路水位計	FEアドバンテック	ML-122		MC-123	152644	0～5m	2015	2	○	○	◎
大正東雨水貯留	槽内水位計	FEアドバンテック	ML-122		MC-123	163439	0～5m	2016	3	○	○	◎
大正東雨水貯留	水路水位計	FEアドバンテック	ML-122		MC-123	163440	0～5m	2016	3	○	○	◎
土師宮町雨水貯留	槽内水位計	FEアドバンテック	ML-122		MC-123	0163445	0～5m	2016	3	○	○	◎
土師宮町雨水貯留	水路水位計	FEアドバンテック	ML-122		MC-123	0163446	0～5m	2016	3	○	○	◎
沢雨水貯留	貯留槽水位計	FEアドバンテック	ML-122		MC-123	0172560	0～5m	2017	2	◎	○	○
沢雨水貯留	排水路水位計	FEアドバンテック	ML-122		MC-123	0172561	0～5m	2017	2	◎	○	○
梅原雨水貯留	貯留槽水位計	FEアドバンテック	ML-122		MC-123	0172557	0～5m	2017	2	◎	○	○
梅原雨水貯留	排水路水位計	FEアドバンテック	ML-122		MC-123	0172558	0～5m	2017	2	◎	○	○
梅原雨水貯留	流入水路水位計	FEアドバンテック	ML-122		MC-123	0172559	0～5m	2017	2	◎	○	○
小谷ヶ丘雨水貯留	ポンプ槽水位計	FEアドバンテック	ML-122		MC-123	0181350	0～5m	2018	1	○	◎	○
小谷ヶ丘雨水貯留	放流口水位計	FEアドバンテック	ML-122		MC-123	0181351	0～5m	2018	1	○	◎	○
西池雨水貯留	雨水貯留槽水位計	FEアドバンテック	ML-122		MC-123	0198234	0～5m	2019	8	○	○	◎
内記雨水貯留	槽内水位計	鶴見製作所	MLS-5J1		MLA-6J1	0092240	0～3m	2009		○	○	○
内記雨水貯留	水路水位計	鶴見製作所	MLS-5J1		MLA-6J1	0092241	0～5m	2009		○	○	○
仲ノ坪雨水貯留	槽内水位計	鶴見製作所	MLS-5J1		MLA-6J1	0101022		2010		○	○	○
地藏ヶ端雨水貯留	槽内水位計	鶴見製作所	MLS-5J1		MLA-6J1	0111367		2011		○	○	○
地藏ヶ端雨水貯留	水路水位計	鶴見製作所	MLS-5J1		MLA-6J1	011366		2011		○	○	○
仲ノ坪北雨水貯留	槽内水位計	鶴見製作所	MLS-5J1		MLA-6J1			2012		○	○	○

◎	ベロフラム等交換
○	点検のみ







「段汚水中継ポンプ場除草範囲図」

平面図 S=Free

